

(1) 調査概要

(ア) 調査目的

本調査は、扶桑町男女共同参画プラン（第二期）策定のため、男女共同参画社会に関する町民の意識・行動の実態、ニーズ等を把握し、新たな計画策定に向けた基礎資料とすることを目的として実施しました。

(イ) 調査設計

調査地域	: 扶桑町全域
調査対象者	: 扶桑町内在住の満 15 歳以上の男女
標本数	: 1,000 件
抽出方法	: 住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	: 平成 30 年 10 月 10 日～平成 30 年 10 月 31 日（書面）
調査方法	: 調査票による本人記入方式 郵送による配布、回収

(ウ) 回収状況

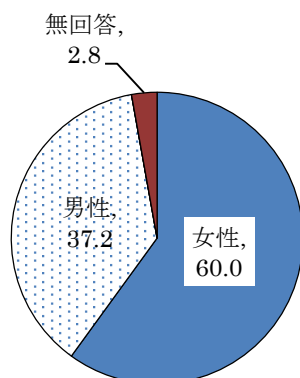
配布数	: 1,000 件
回収数	: 320 件
回収率	: 32.0%

(エ) 調査結果の表示方法

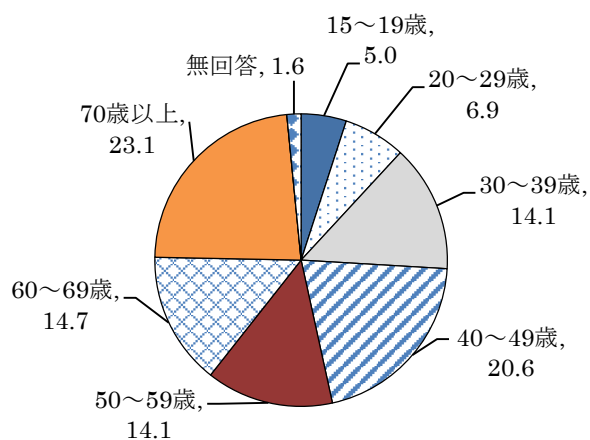
- ・ 調査結果の％表示は、少数以下第 2 位を四捨五入しておりますので、内訳の合計がちょうど 100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な場合、すべての比率の合計がちょうど 100.0%にならない場合があります。
- ・ クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差し並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

(2) 回答者の属性

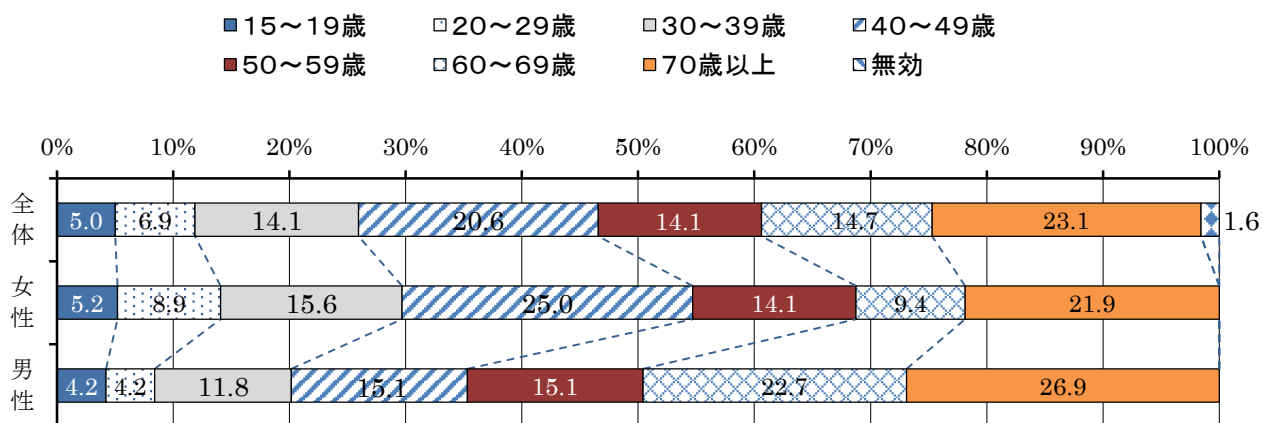
(1) 回答者の性別 (%)



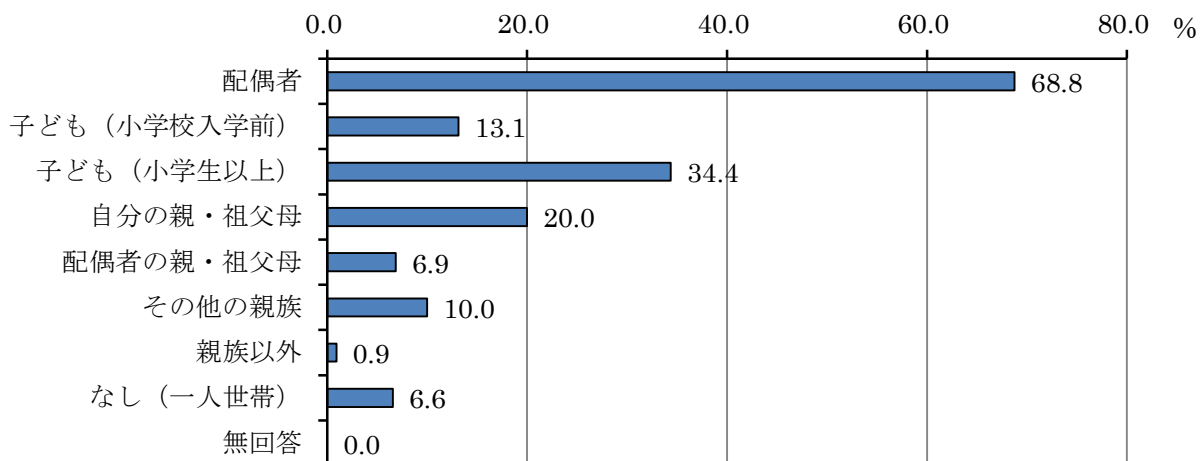
(2) 回答者の年齢 (%)



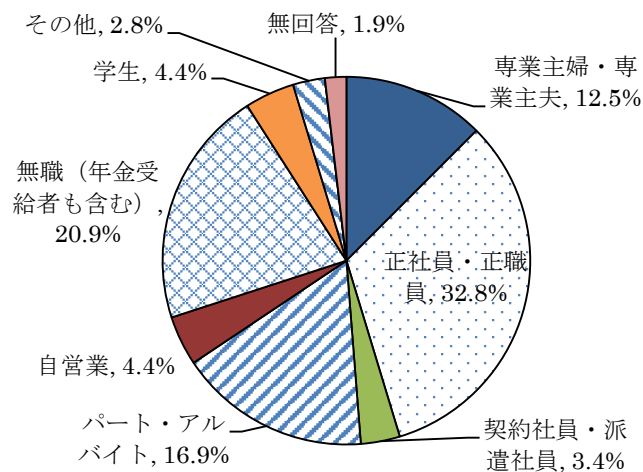
(1) × (2) 男女別 年代



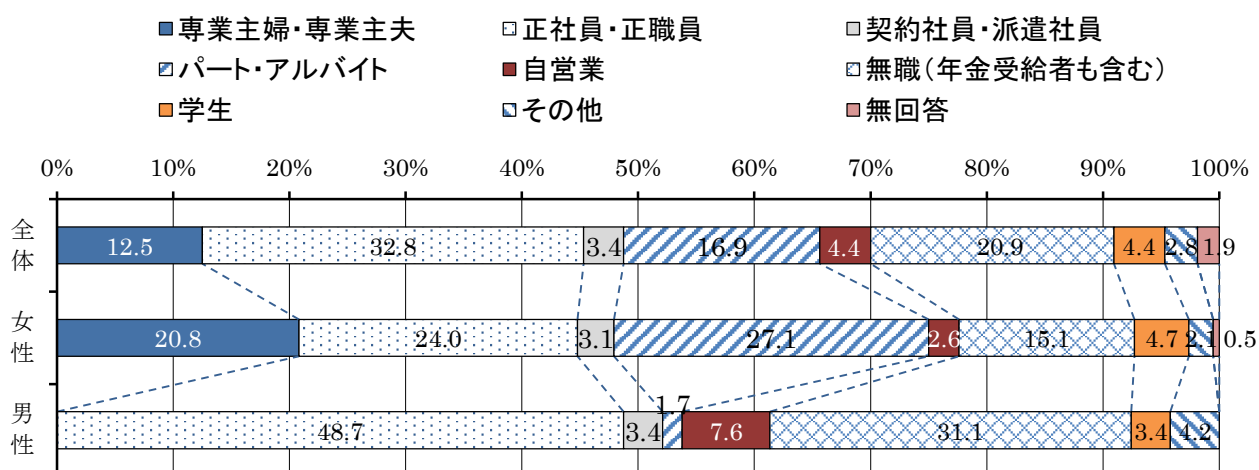
(3) 回答者の同居家族 (複数回答)



(4) 回答者の職業 (%)



(1)×(4) 男女別 職業



1 男女共同参画について

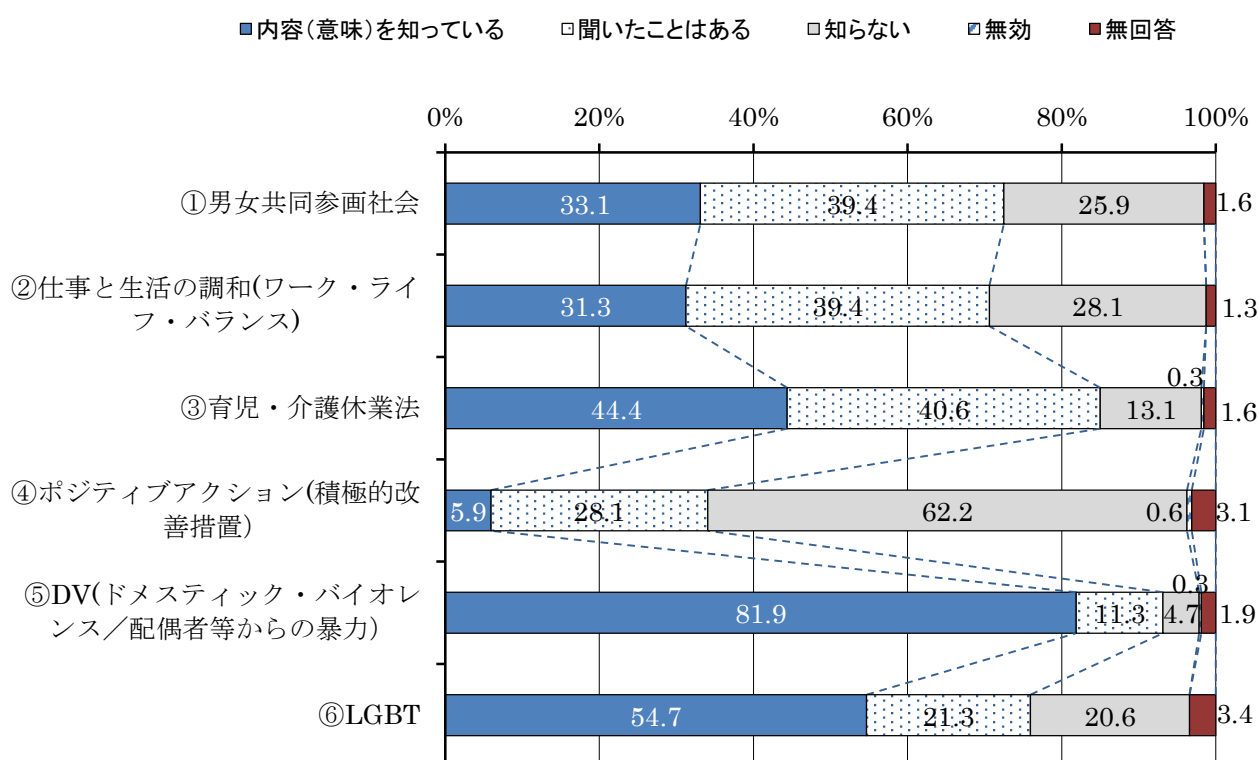
問1 あなたは、下記の言葉を知っていますか。（①から⑥までそれぞれ1つに○）

「男女共同参画社会」を「内容（意味）を知っている＝以下、知っている」は33.1%、「聞いたことはある」39.4%となり（2つの計は72.5%）でした。前回調査の「知っている」17.9%、「聞いたことはある」36.2%（2つの計は54.1%）と比べて、理解が進んでいます。

6つの問の内、「知っている」が最も高いものが「DV」の81.9%で、次いで「LGBT」54.7%でした。「育児・介護休業法」は「知っている」が44.4%、「仕事と生活の調和」は同31.3%で、「聞いたことはある」との計は、各々85.0%、70.7%で、一定程度認知されています。

他方、「ポジティブアクション」は、「知っている」5.9%、「聞いたことがある」28.1%、「知らない」62.2%で、よく知られていない状況でした。

図 6つの語句の認知



① 男女共同参画社会

全体では、「知っている」「聞いたことはある」の計が 72.5%と、一定の認知が得られています。「知らない」が 25.9%で、平成 20 年の数値（42.5%）と比べて大幅に減少しました。

男女別で見ると、男性は女性に比べて「知らない」の割合が高くなっています（女性 22.4%、男性 31.9%）。平成 20 年では、女性の方が「知らない」が高く（女性 44.3%、男性 39.0%）、女性において認知が進みました。

年齢別で見ると、「知っている」という割合は男女ともに 30 代が低く、特に女性 30 代で最も低い 13.3%となっています。また、「知らない」の割合は、30 代男性が 50.0%と最も高く、続いて 20 代男性が 40.0%と高い割合となりました。

図 男女別「男女共同参画社会」の認知度の状況

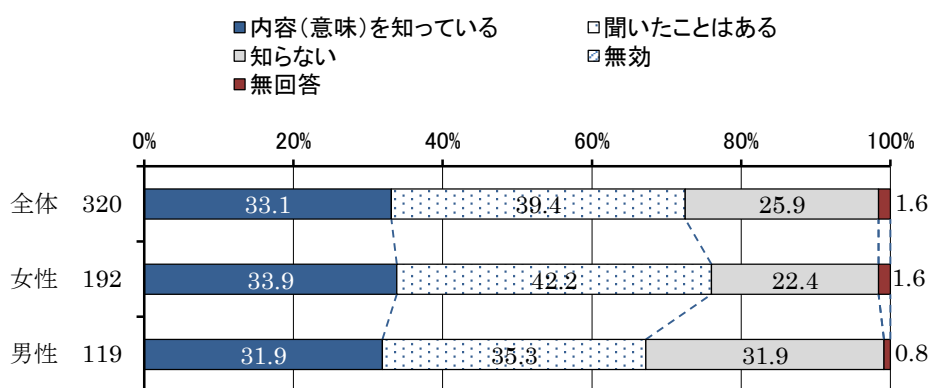
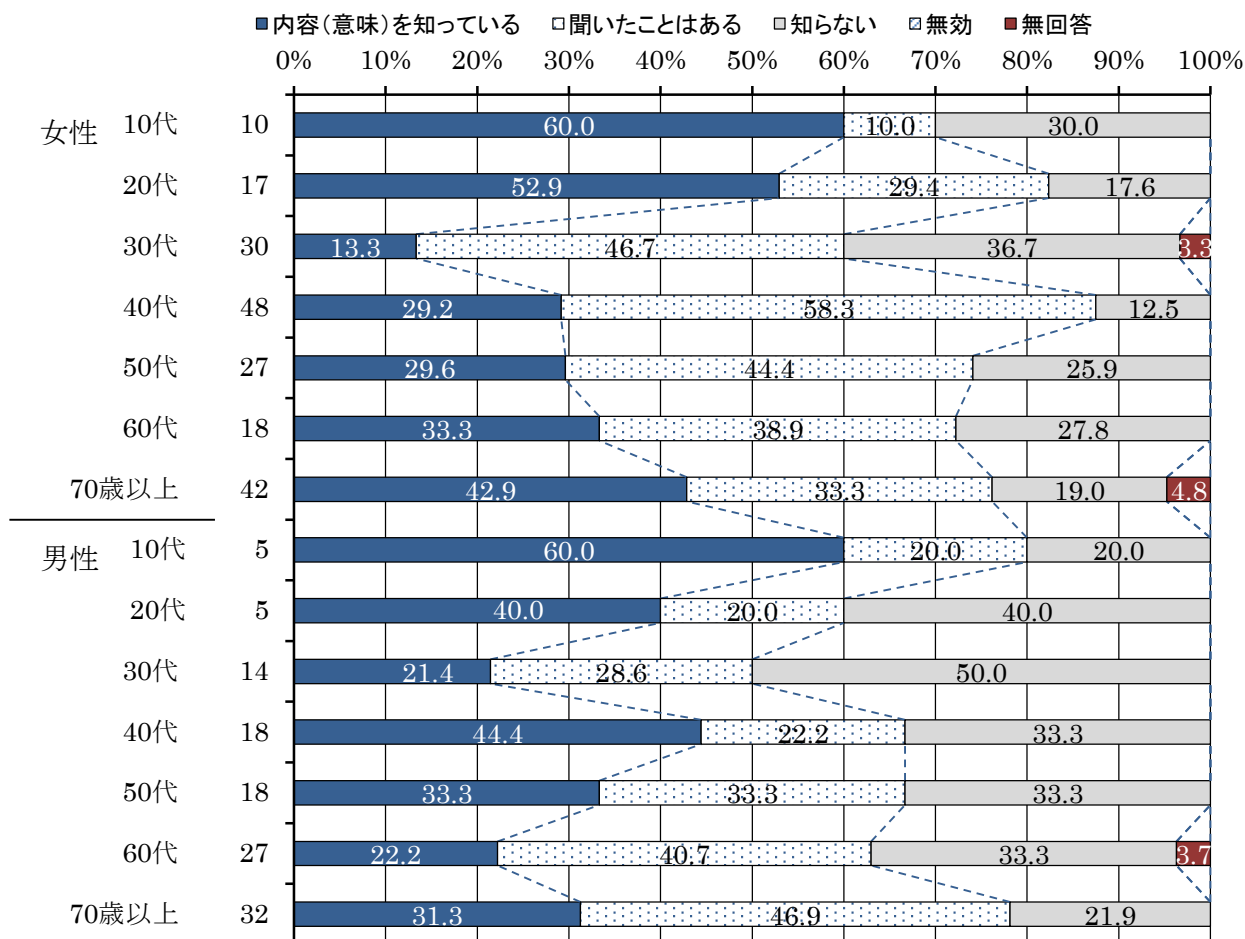


図 男女別年代別「男女共同参画社会」の認知度の状況



② 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

全体では、「知っている」「聞いたことはある」の計が70.7%と、一定の認知が得られています。

男女別で、大きな差異はありませんが、男性に「聞いたことがある」の割合が高く、女性に「内容（意味）を知っている」の割合が高い結果でした。

年齢別で見ると、「知っている」は男女ともに10代が高い割合でした。また、「知らない」の割合は、女性は50代、60代に高く、男性は40代と70代以上で高くなっています。一方で、女性では70代以上、男性では60代で「知らない」が低い割合でした。

図 男女別「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」の認知度の状況

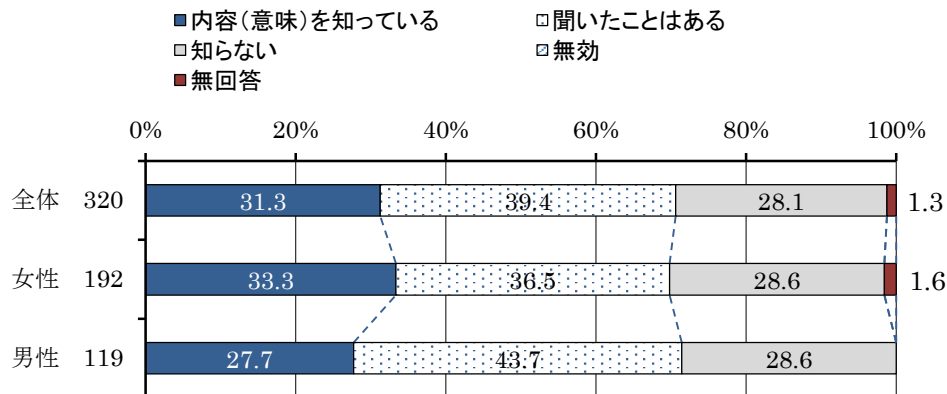
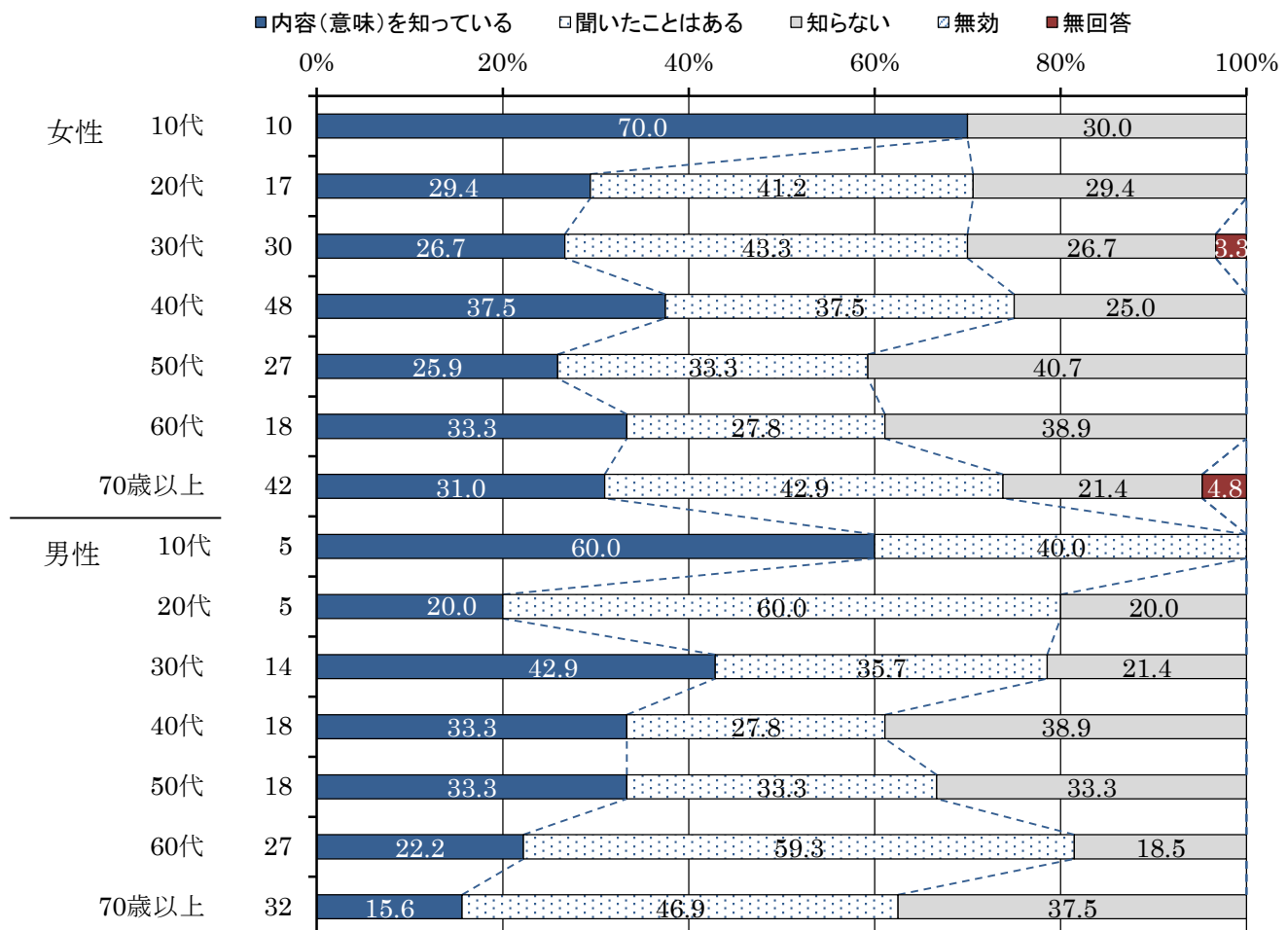


図 男女別年代別「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」の認知度の状況



③ 育児・介護休業法

全体では、「知っている」「聞いたことはある」の計が85.0%と、一定の認知が得られています。

男女別では、女性は男性に比べ「知っている」の比率は高く、男性は「聞いたことがある」の割合が高くなりました。

年齢別で見ると、「知っている」割合は女性では40代、50代で高く、30代ではやや低くなっています。男性では30代では30%以下で、40代、50代でも40%以下とやや低い割合でした。

図 男女別「育児・介護休業法」の認知度の状況

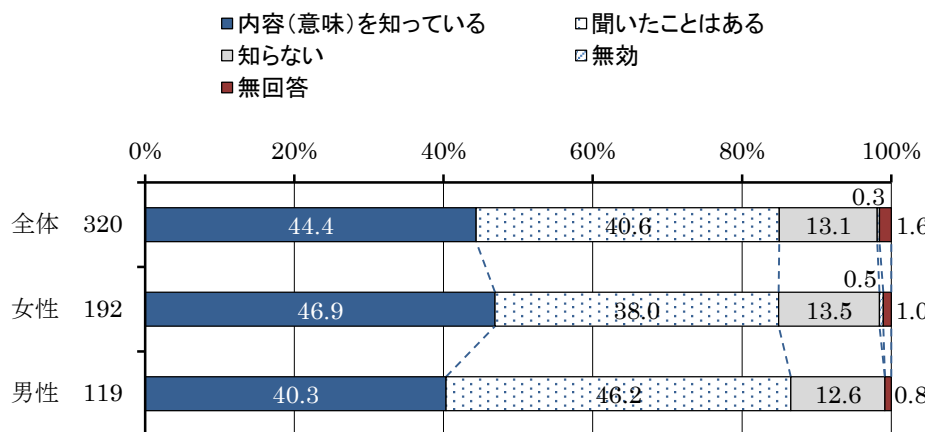
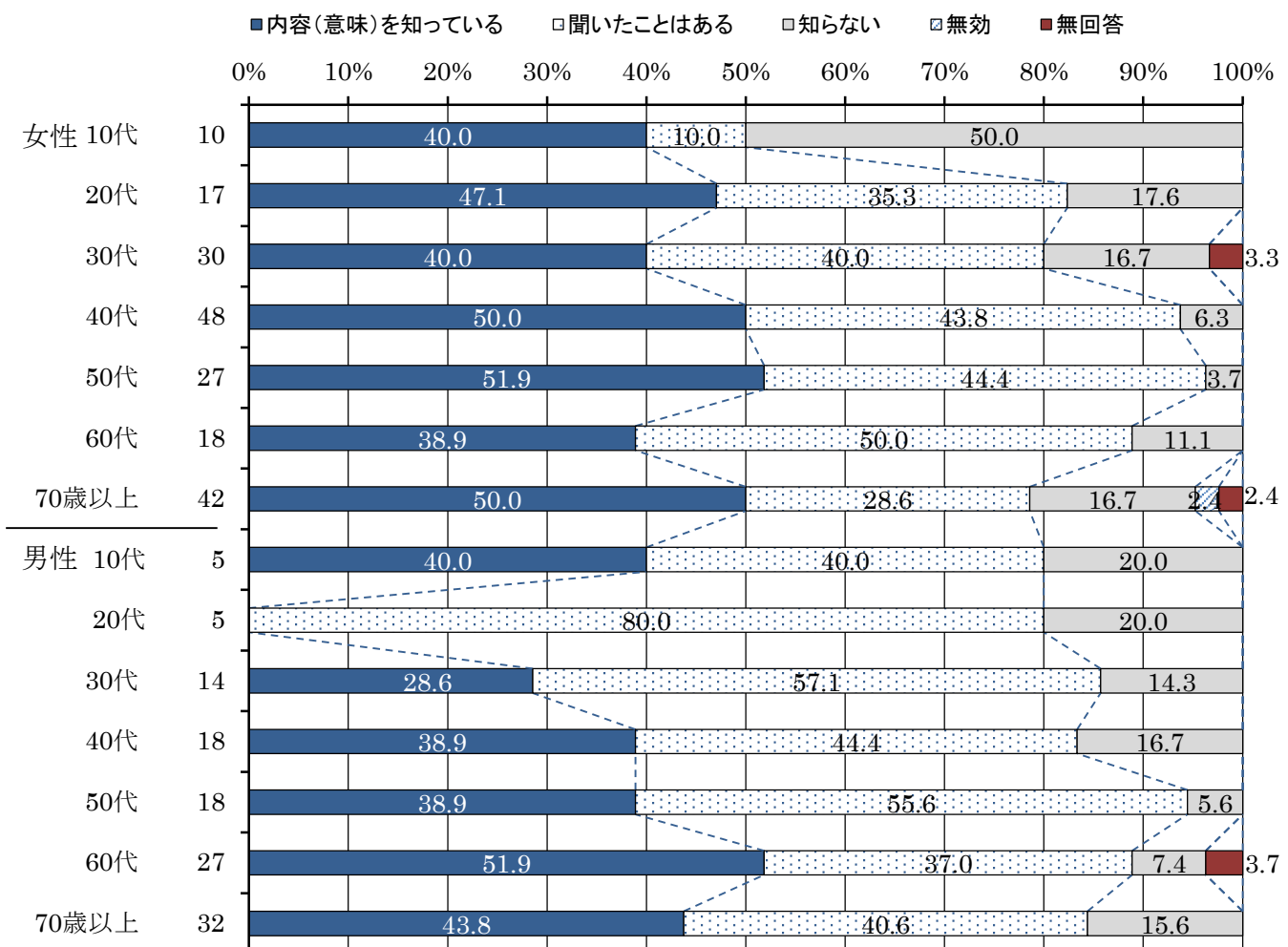


図 男女別年代別「育児・介護休業法」の認知度の状況



④ ポジティブアクション（積極的改善措置）

全体では、「知っている」が 5.9%と低く、「聞いたことはある」28.1%と、合計しても 34.0%にとどまりました。

男女別では、男性の方が「知っている」の割合は高く、女性は「聞いたことはある」の割合が高くなりました。

年齢別で見ると、「知らない」の割合は 10 代で男女ともに高く 80.0%でした。「知っている」「聞いたことがある」の計は、女性では 60 代、70 代で高い割合でした。男性では、30 代が最も高く、次いで 20 代と、男女での傾向が異なりました。

図 男女別「ポジティブアクション(積極的改善措置)」の認知度の状況

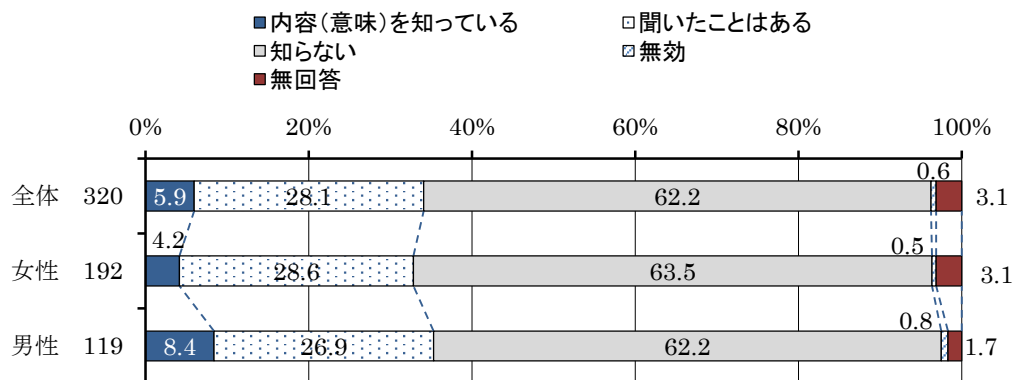
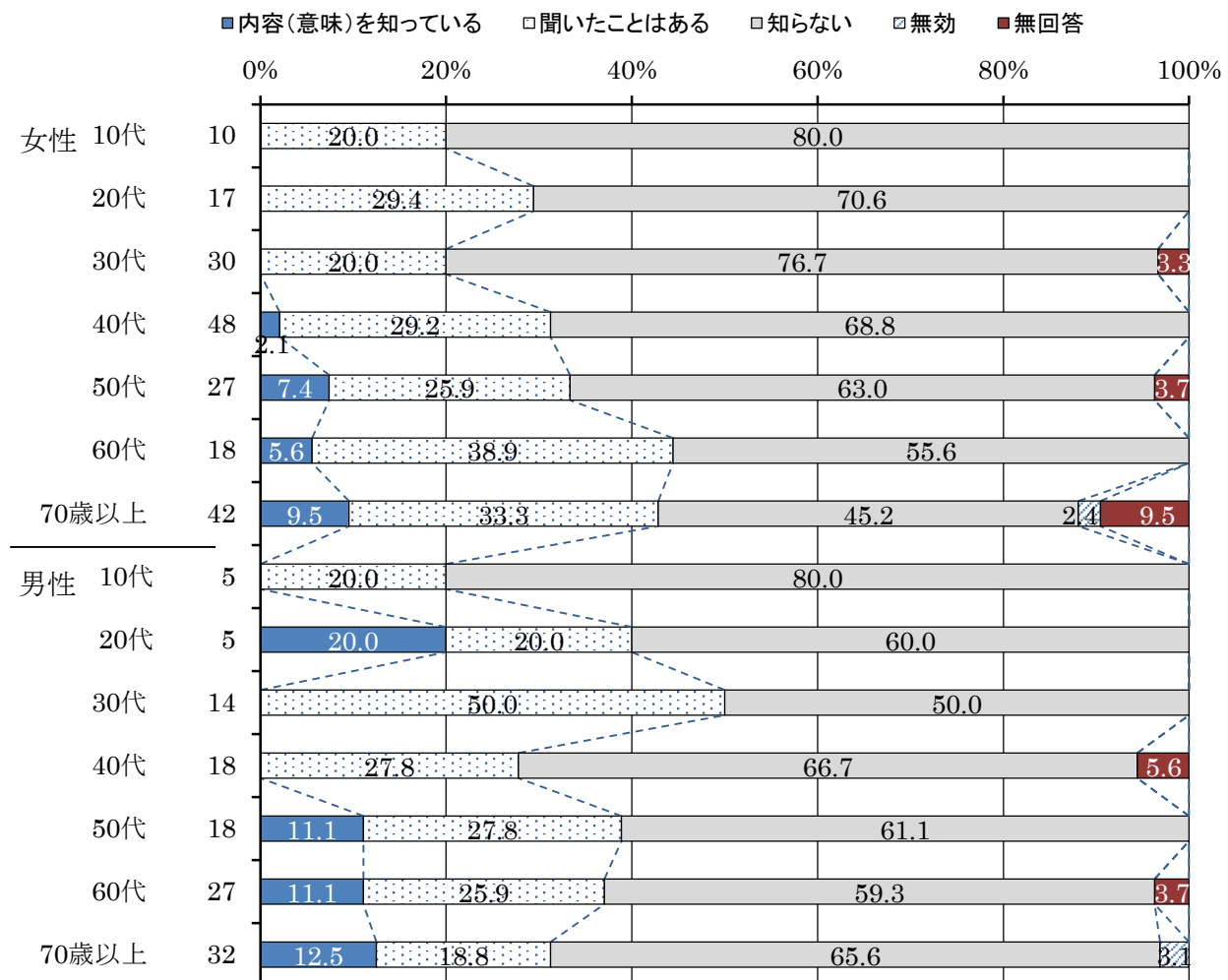


図 男女別年代別「ポジティブアクション(積極的改善措置)」の認知度の状況



⑤ DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）

全体では、「知っている」81.9%と、よく知られています。

男女別では、女性が男性に比べ「知っている」が高い割合になりました。

年齢別で見ると、「知っている」割合がやや低かったのは、女性では10代、60代、70代以上、男性では30代、60代、70代以上でした。

図 男女別「DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）」の認知度の状況

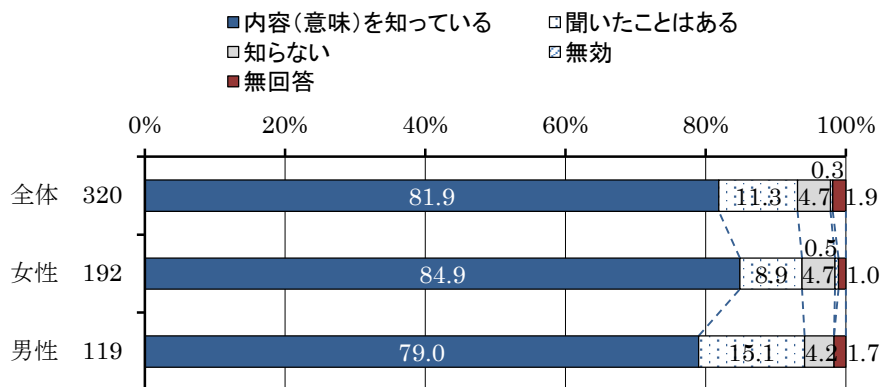
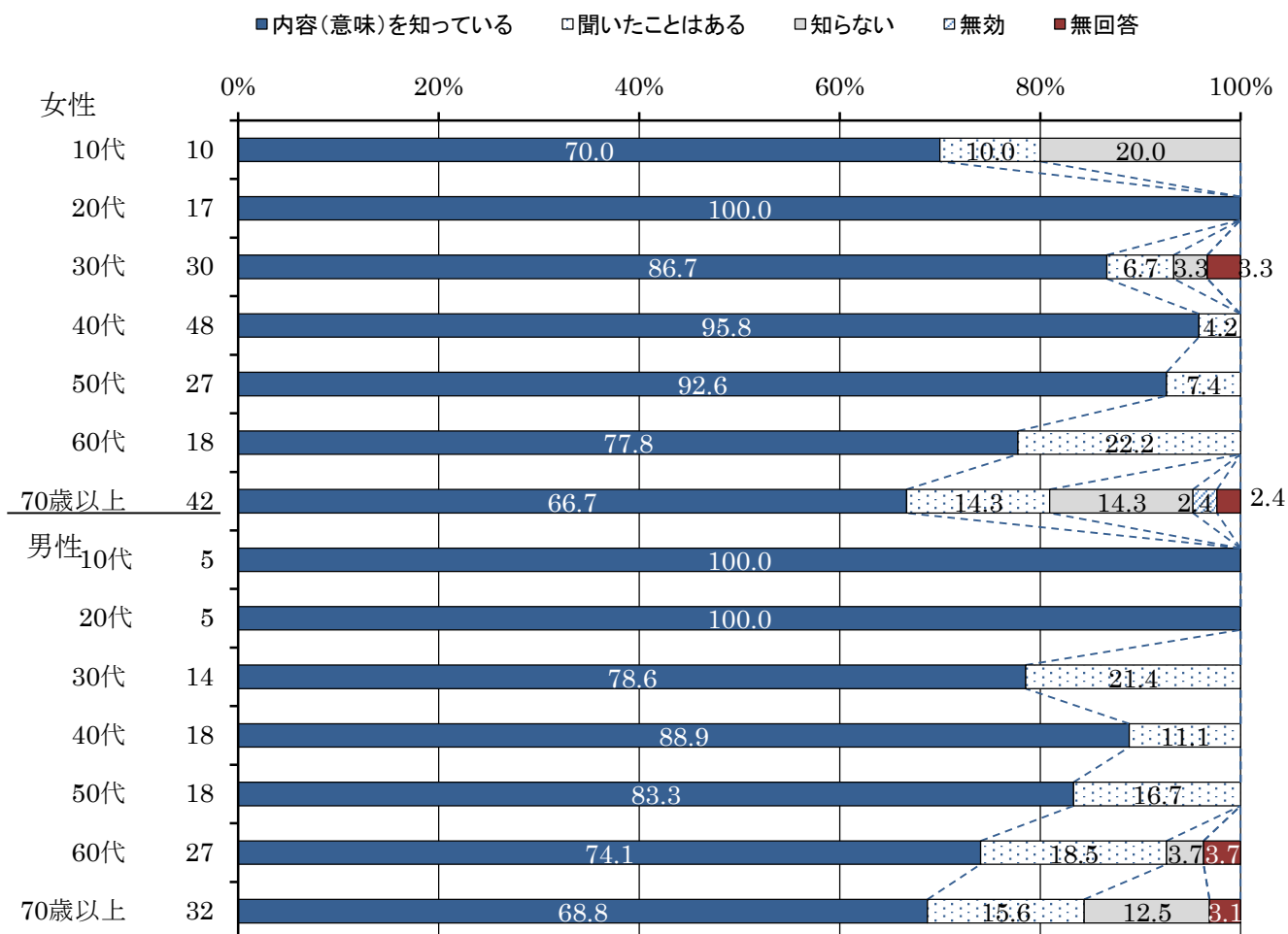


図 男女別年代別「DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）」の認知度の状況



⑥ **LGBT**（同性が好きな人や、自分の性に違和感を覚える人、または性同一性障害などの人々のこと。「セクシャルマイノリティ」、「性的マイノリティ」、「性的少数者」とも言う。L（レズビアン）＝女性の同性愛者、G（ゲイ）＝男性の同性愛者、B（バイセクシャル）＝両性愛者、T（トランスジェンダー）＝生まれてきたときの法的・社会的性別とは違う性別で生きる人・生きたいと望む人、の頭文字をとって「LGBT」と呼ばれている）

全体では、「知っている」54.7%、「聞いたことはある」21.3%と、合計で76.0%で、一定の認知が得られています。

男女別では、女性は男性に比べ「知っている」の割合が大きく上回りました（女性62.0%、男性44.5%）。男性では「知らない」が26.9%にのぼっています。

年齢別で見ると、「知っている」割合は男女ともに70代以上で低くなりました。また、男性ではいずれの年代も女性と比較的すると低い割合となっています。

図 男女別「LGBT」の認知度の状況

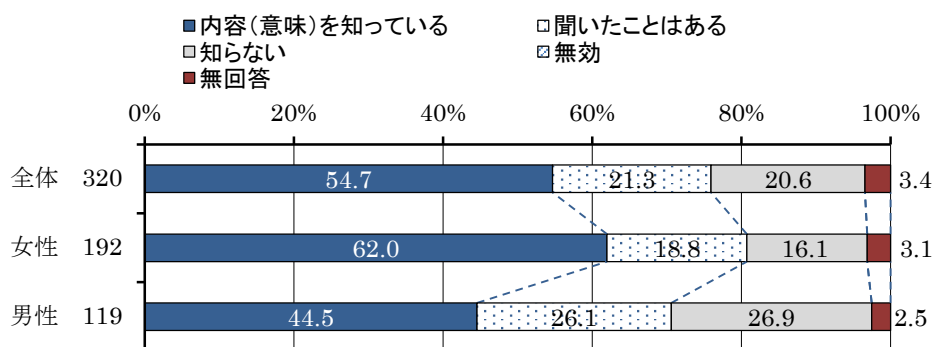
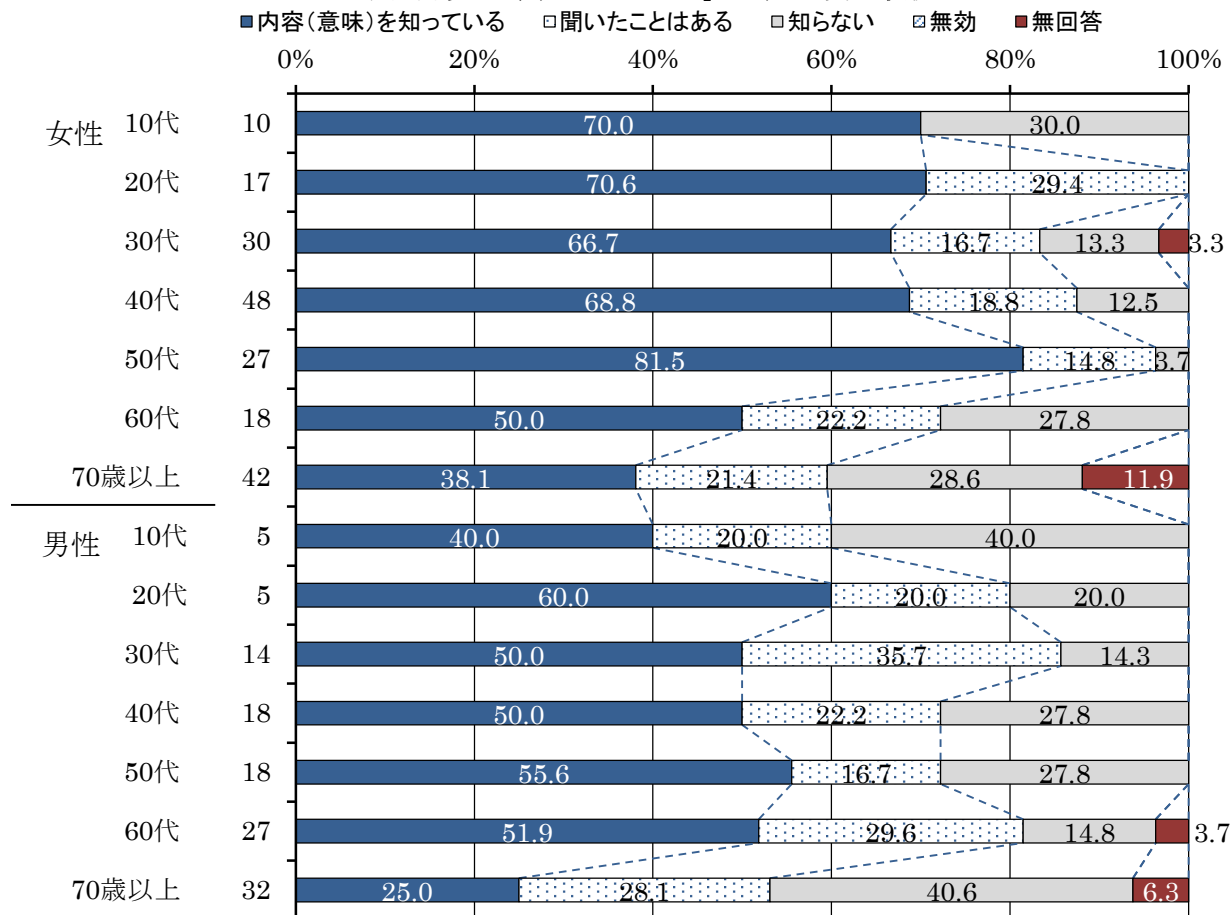


図 男女別年代別「LGBT」の認知度の状況



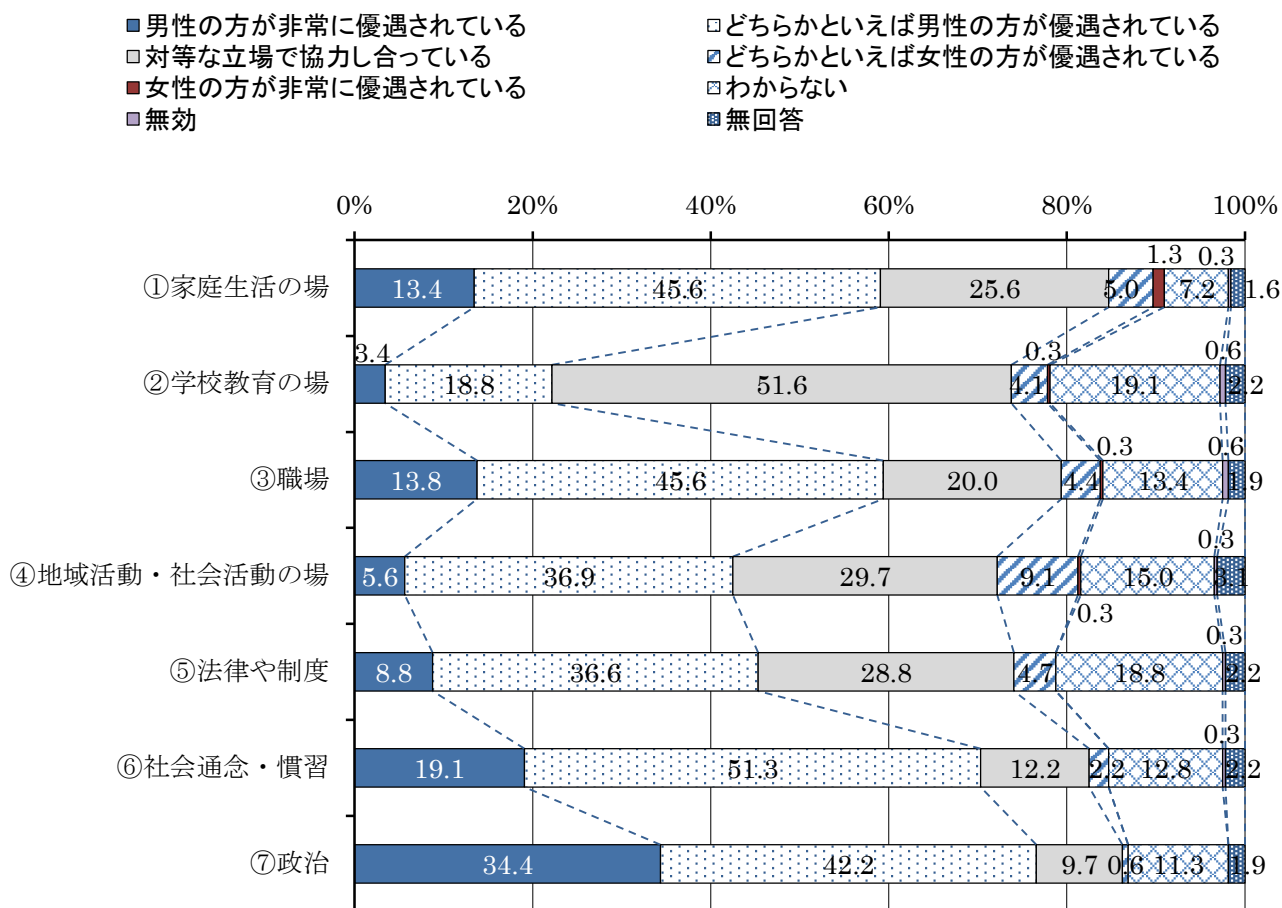
問2 あなたは、次のような分野において、現在、男女が共に対等な立場で協力し合っていると思いますか。
(①から⑦までそれぞれ1つに○)

学校教育の場を除いて、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人が多く、その割合は、政治 76.6%、社会通念・慣習 70.4%、職場 59.4%、家庭生活の場 59.0%、法律や制度 45.4%、地域活動・社会活動 42.5%の順となっています。

また、学校教育では「対等の立場で協力し合っている」51.6%と高い割合でした。

前回調査との比較では、“男性が優遇されている”は、前回数値は社会通念・慣習 67.0%、家庭生活の場 51.8%、法律や制度 38.0%、地域活動・社会活動 36.3%で、これらは今回の方が増加しており、職場(61.2%)では、減少しました。

図 分野別 男女の協力の状況



① 家庭生活の場

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が59.0%と過半数となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は65.2%と、男性より高くなっています。

年齢別で見ると、“男性が優遇されている”の割合は、若い世代では低い傾向が見られますが、高齢でも低くなっている層もあり、不規則な状況となっています。

図 男女別「家庭生活の場」での協力の状況

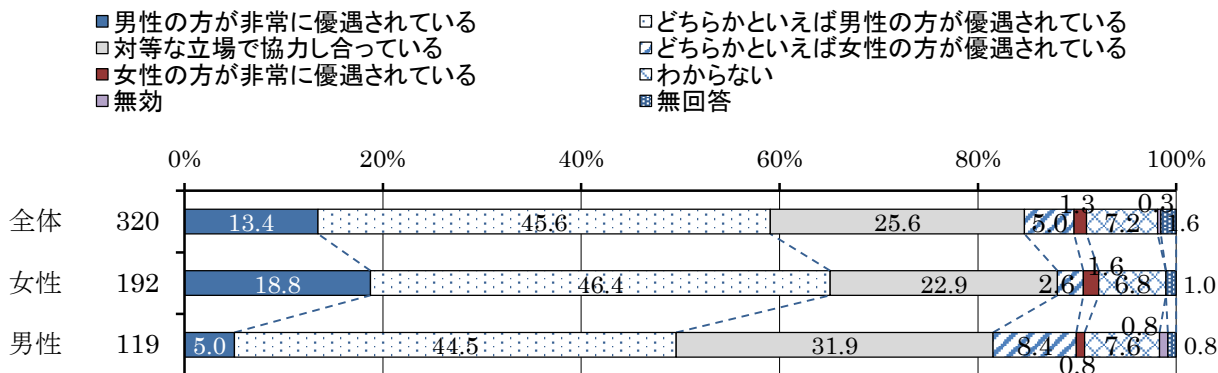
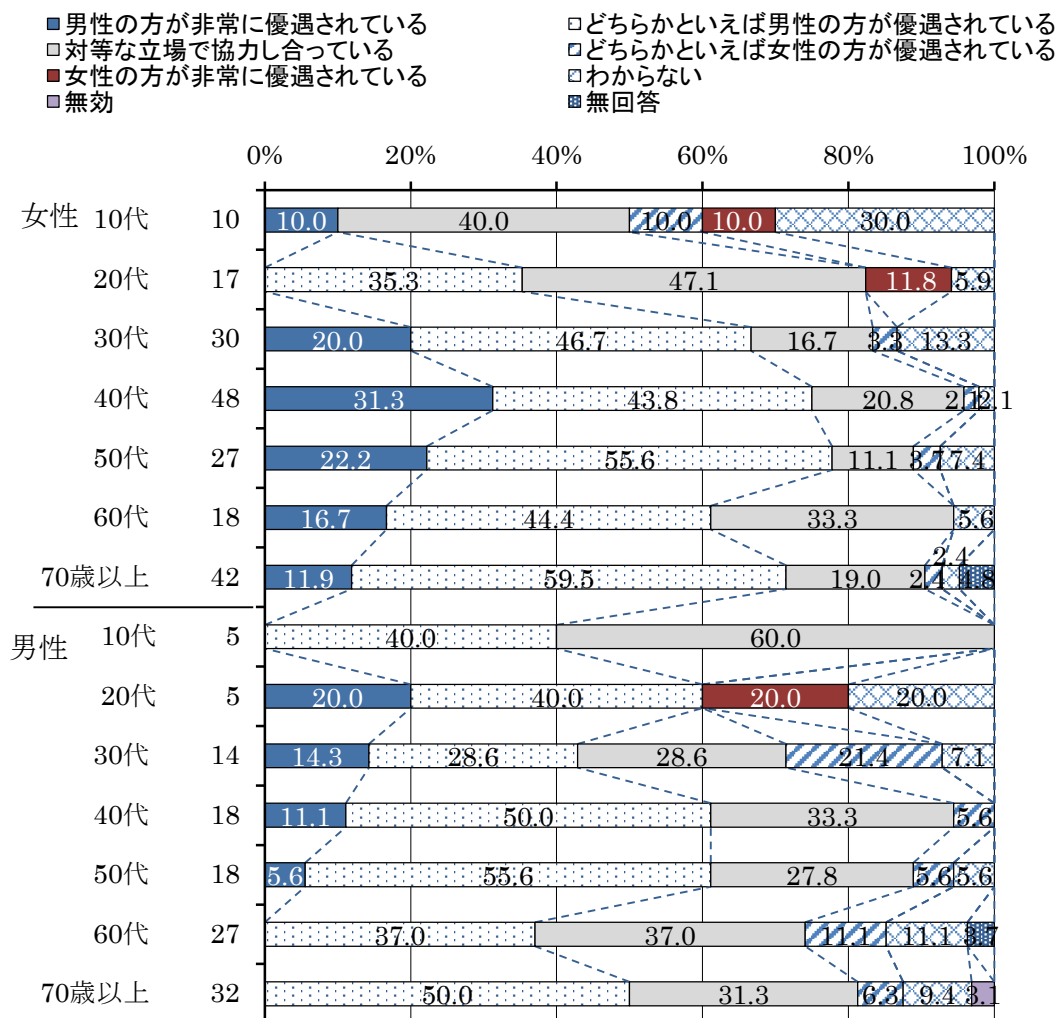


図 男女別年代別「家庭生活の場」での協力の状況



② 学校教育の場

全体では、「対等な立場で協力し合っている」が51.6%と最も高く、“男性が優遇されている”の割合は22.2%となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は28.2%と男性より高くなっています。

年齢別で見ると、“男性が優遇されている”の割合は、40代で男女ともにやや高い傾向が見られます。

図 男女別「学校教育の場」での協力の状況

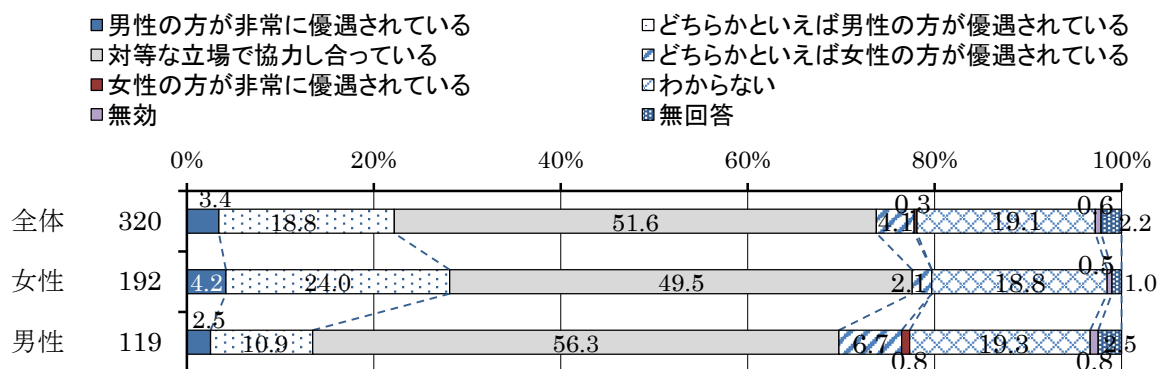
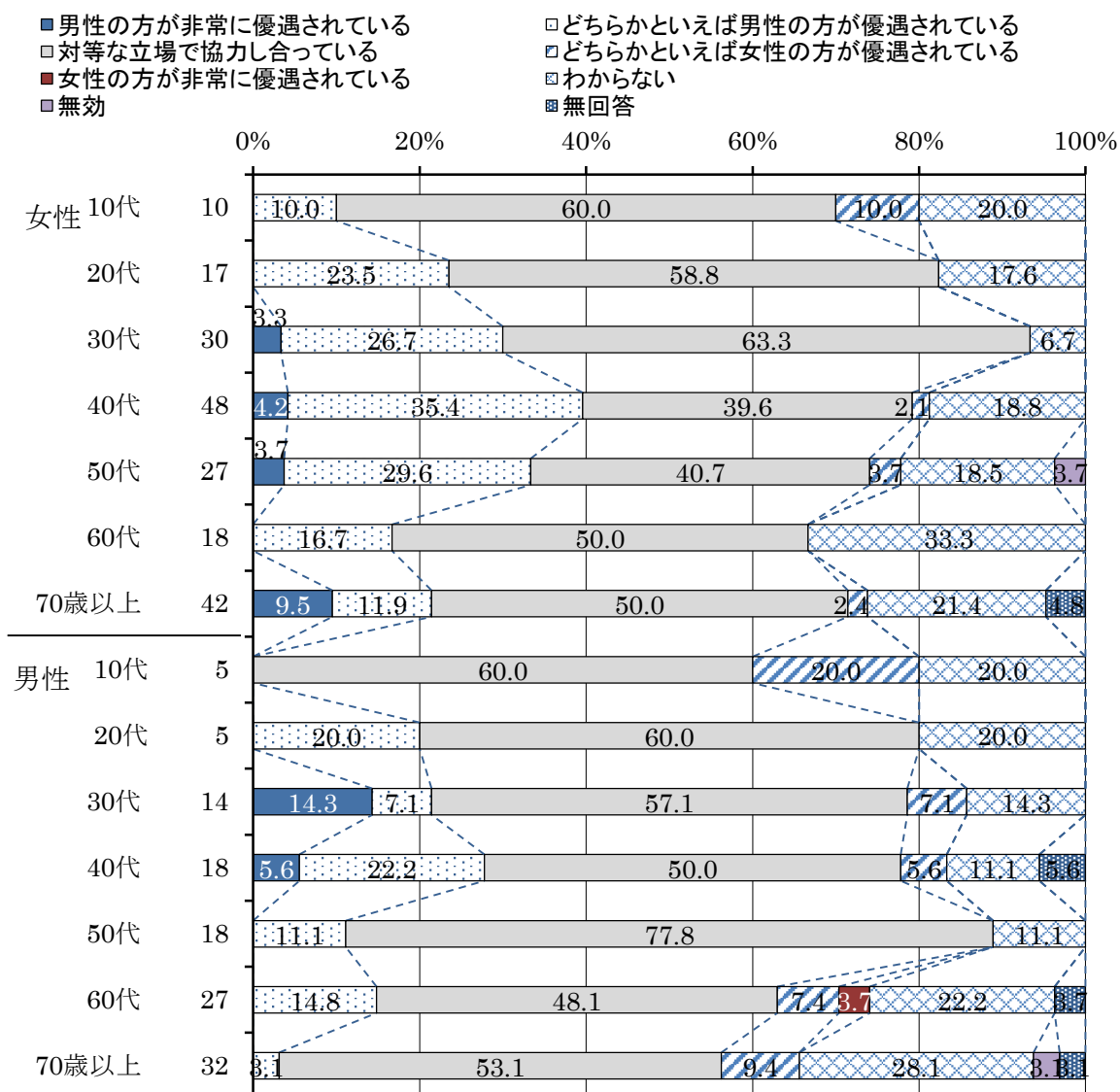


図 男女別年代別「学校教育の場」での協力の状況



③ 職場

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が59.4%と過半数となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は61.0%と男性よりやや高くなりました。年齢別では、不規則で若い世代でも、“男性が優遇されている”の割合が高い層もありました。

図 男女別「職場」での協力の状況

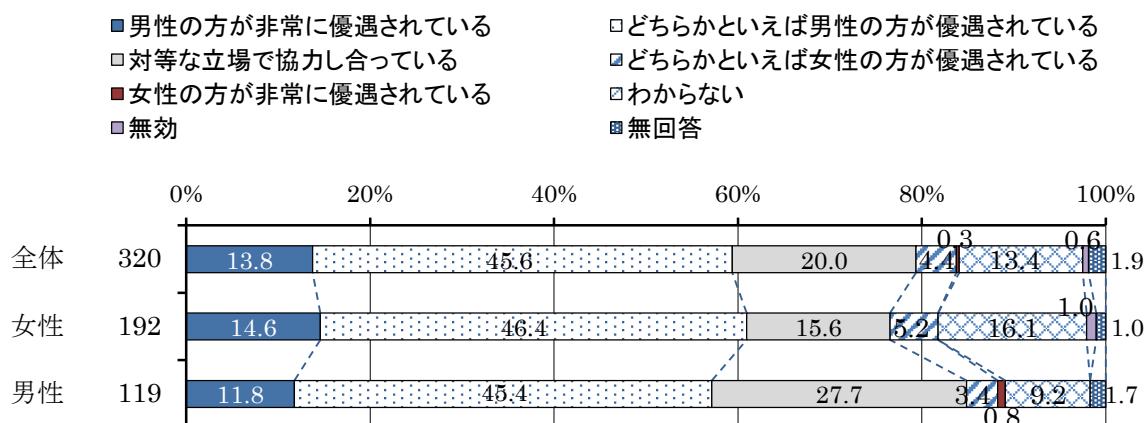
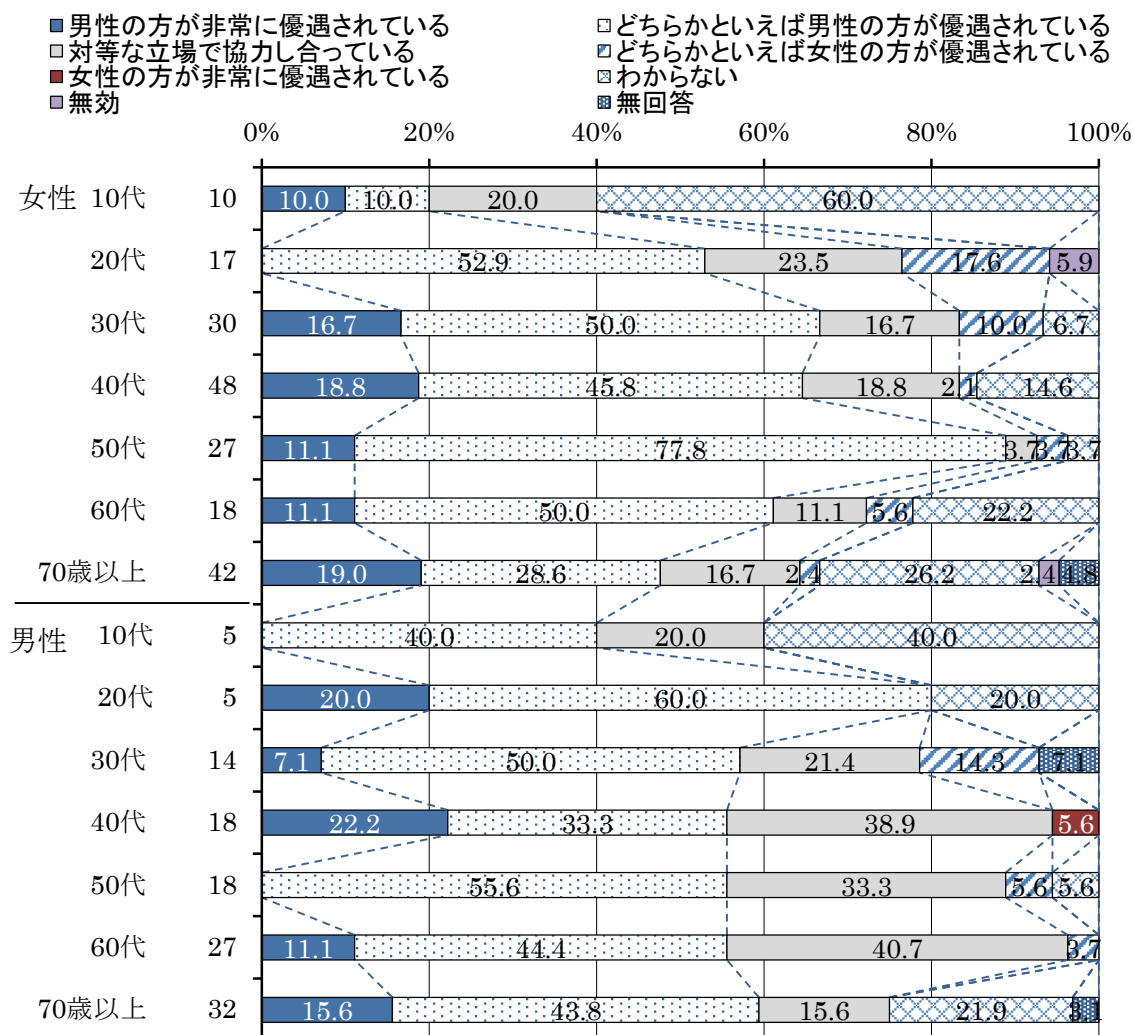


図 男女別年代別「職場」での協力の状況



④ 地域活動・社会活動の場

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が42.5%で、「対等の立場で協力し合っている」が29.7%となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は52.1%、男性では28.6%と、両者の開きは大きくなっています。

年齢別では、40代から60代の女性で“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。

図 男女別「地域活動・社会活動の場」での協力の状況

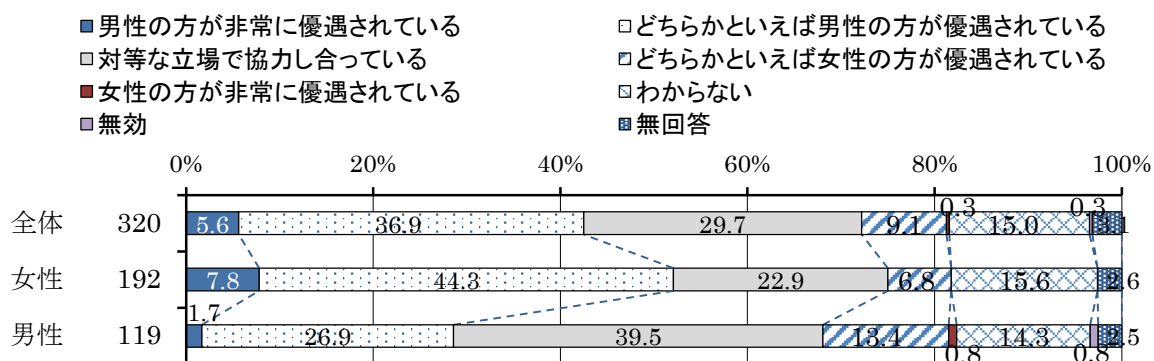
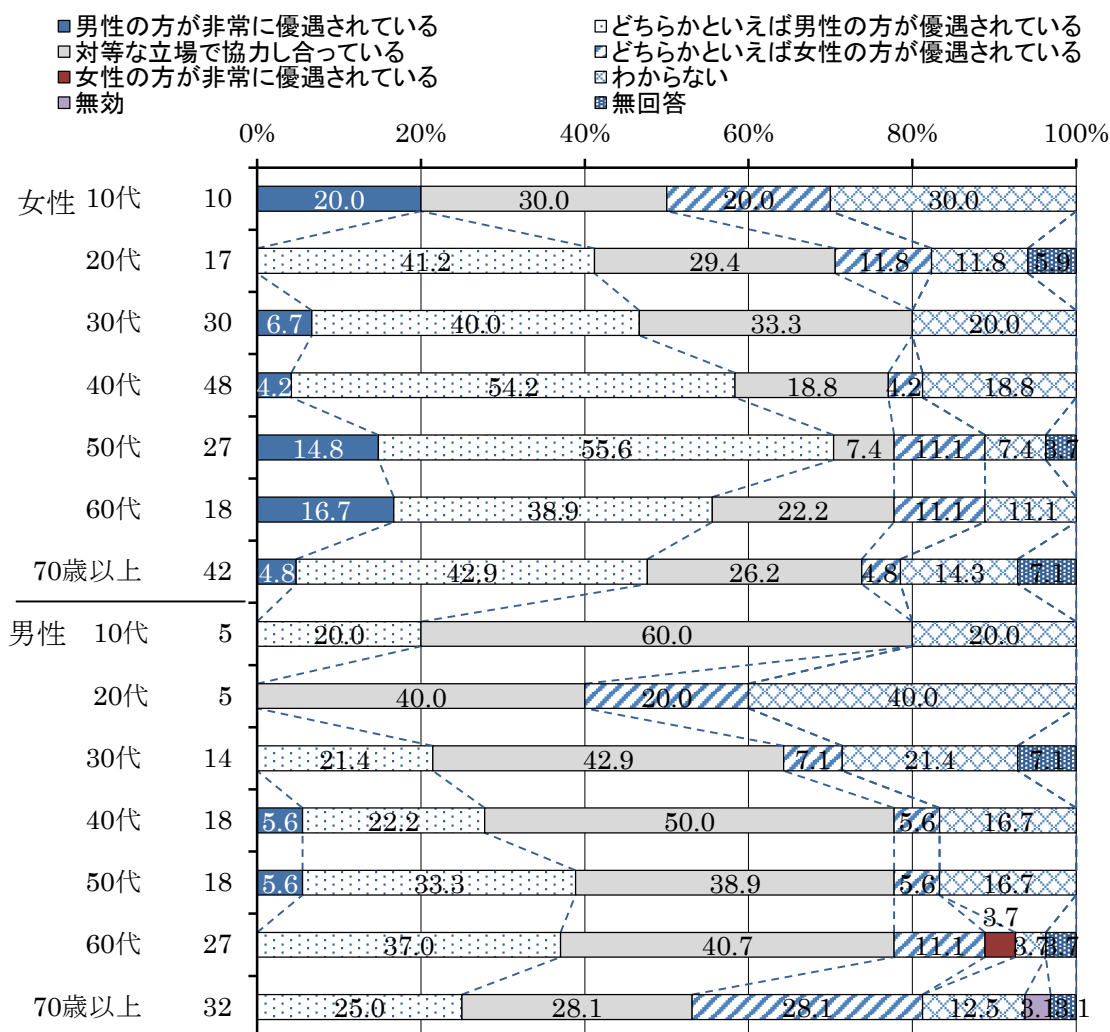


図 男女別年代別「地域活動・社会活動の場」での協力の状況



⑤ 法律や制度

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が45.4%で、「対等の立場で協力し合っている」が28.8%となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は54.7%、男性では30.2%と、両者の差異は大きくなっています。男性では「対等の立場で協力し合っている」が45.4%と高い数値でした。

年齢別では、30代から50代の女性で“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。

図 男女別「法律や制度」での協力の状況

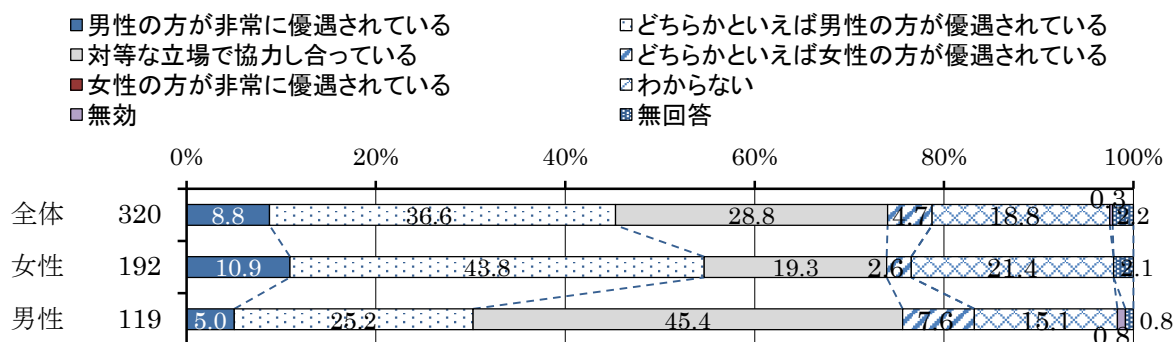
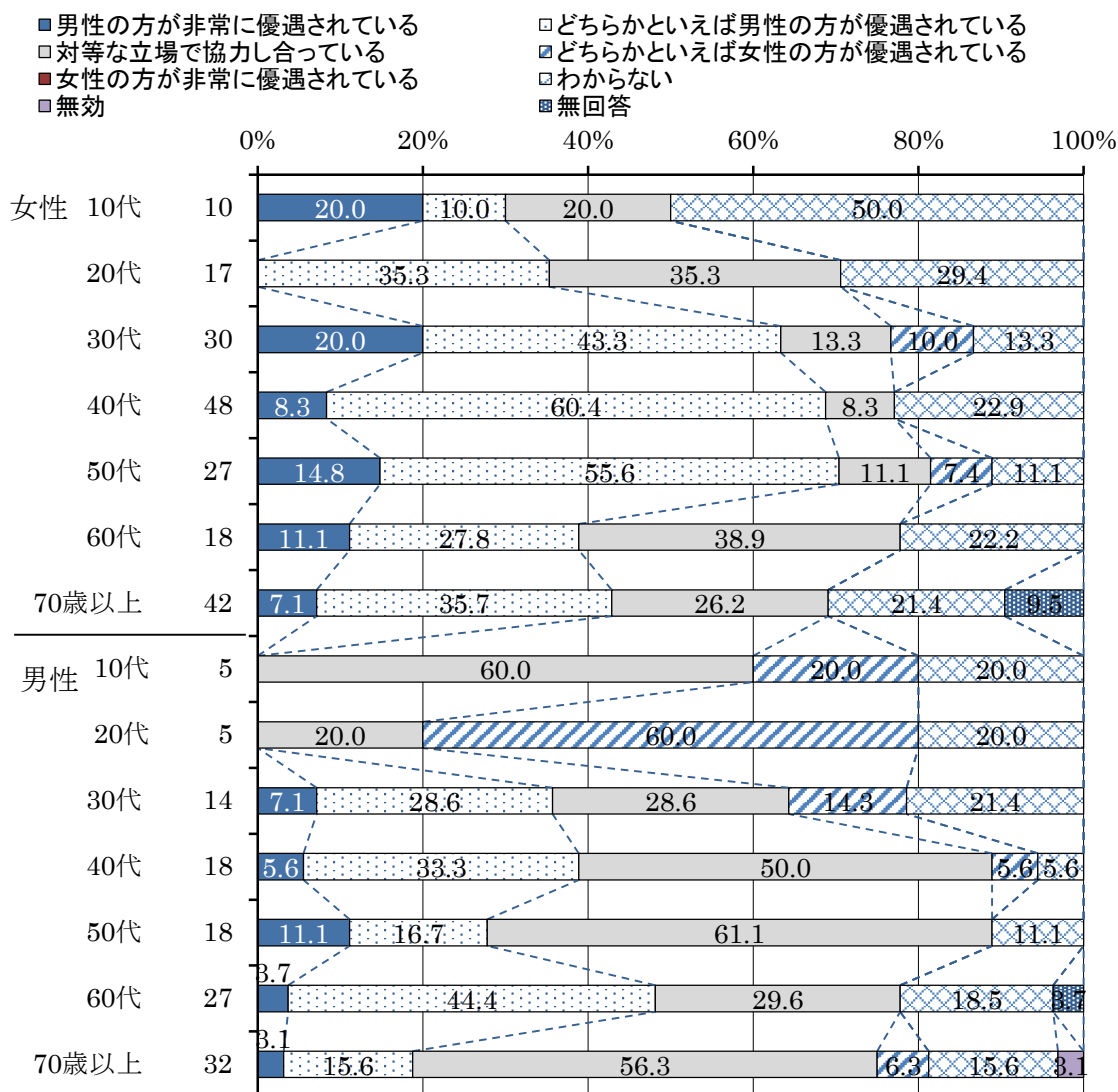


図 男女別年齢別「法律や制度」での協力の状況



⑥ 社会通念・慣習

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が70.4%で、「対等の立場で協力し合っている」が12.2%となっています。

男女別では、女性で“男性が優遇されている”の割合は72.4%、と男性より高くなっています。
年齢別では、40代から60代で男女ともに“男性が優遇されている”が高い割合でした。

図 男女別「社会通念・慣習」での協力の状況

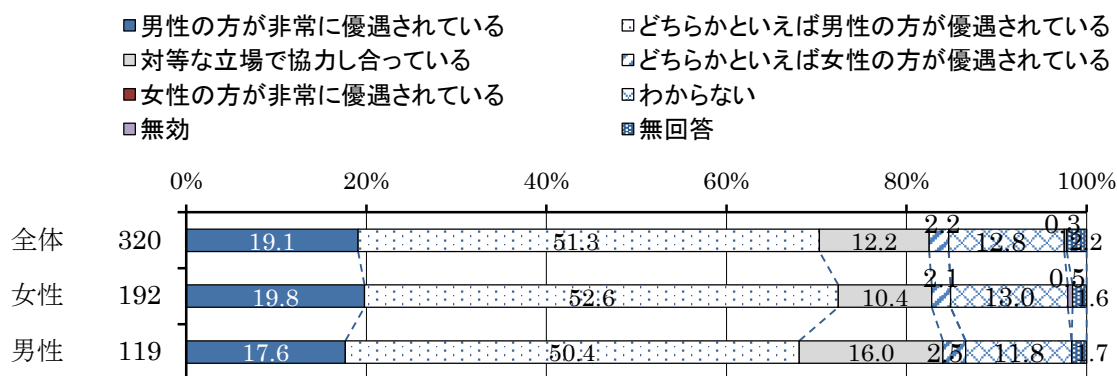
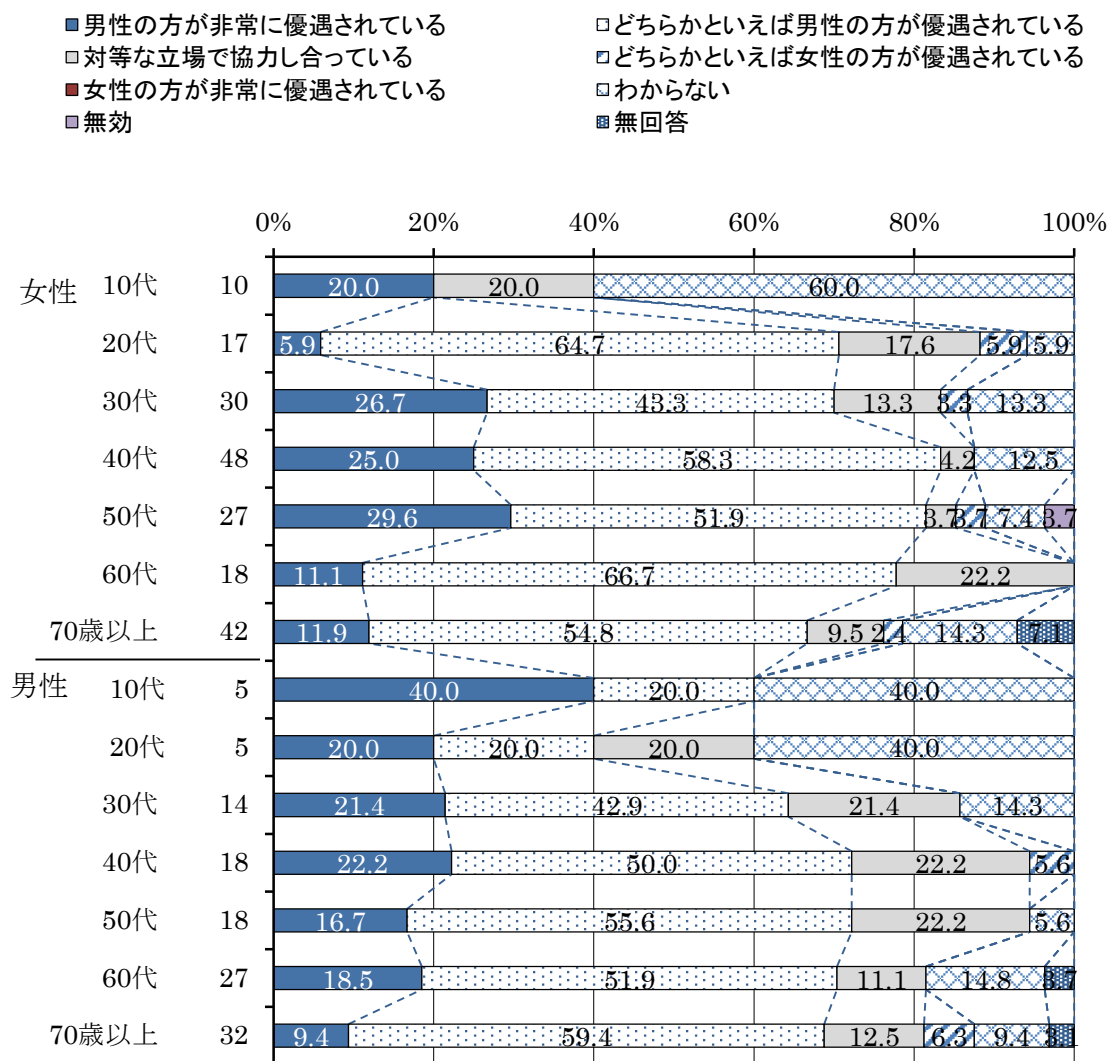


図 男女別年代別「社会通念・慣習」での協力の状況



⑦ 政治

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が76.6%で、「対等の立場で協力し合っている」が9.7%となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は81.2%と男性と比べて高くなっています。

年齢別では、70代以上女性、20代と60代・70代以上男性で“男性が優遇されている”の割合がやや低くなりました。

図 男女別「政治」での協力の状況

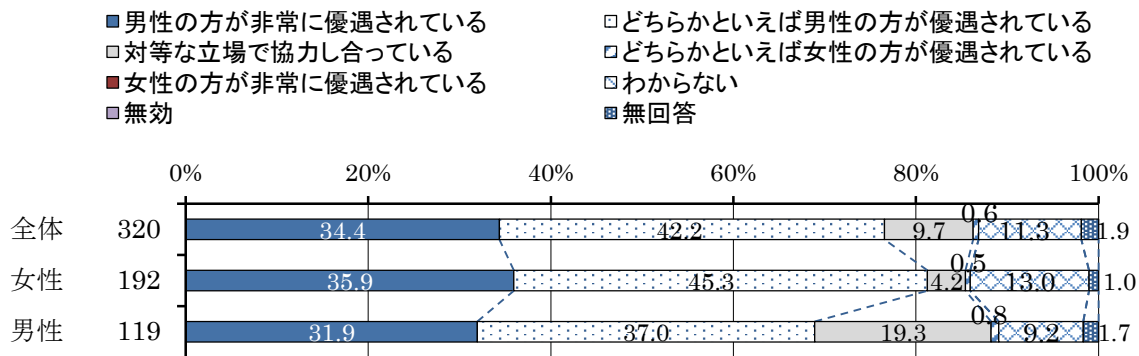
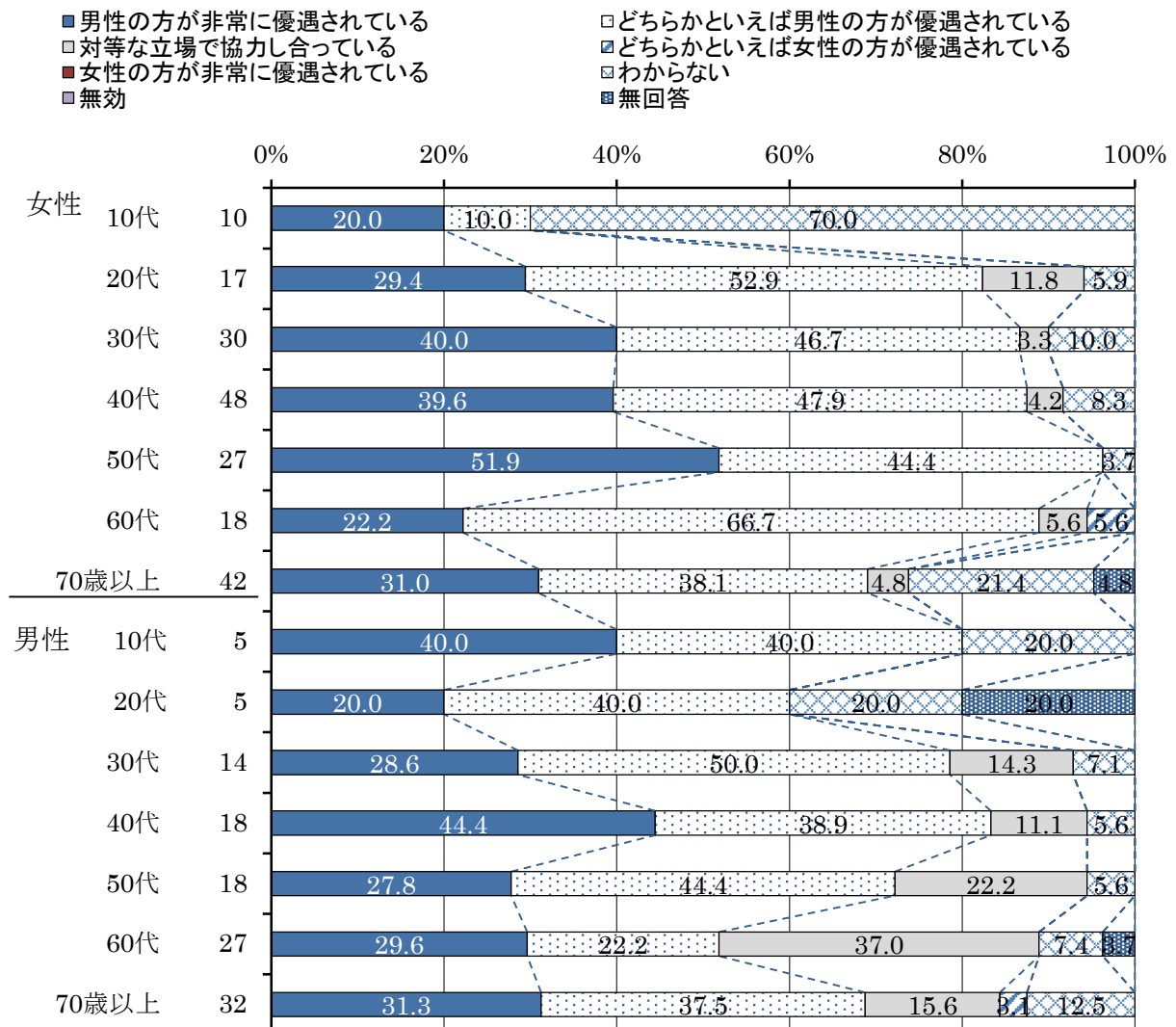


図 男女別年代別「政治」での協力の状況



2 家庭生活、育児、介護等について

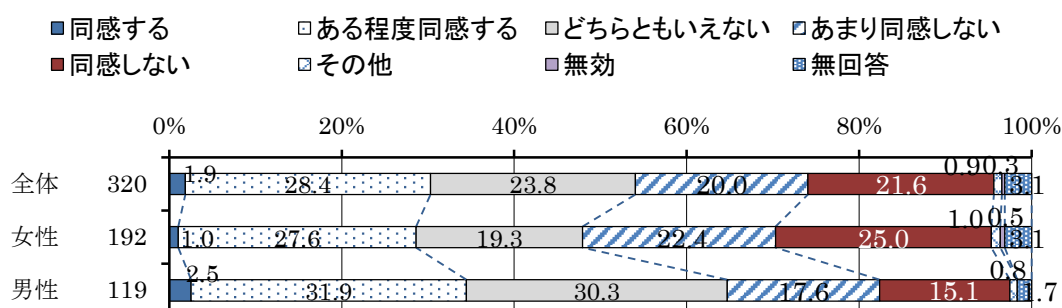
問3 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。（〇は1つ）

全体では、「同感する」1.9%、「ある程度同感する」28.4%で、計30.3%が“同感する”と感じています。前回の調査の同数字44.9%と比べ、大幅に減少しました。他方、「あまり同感しない」20.0%、「同感しない」21.6%で、計41.6%が、“同感しない”という回答で、“同感する”を上回りました。

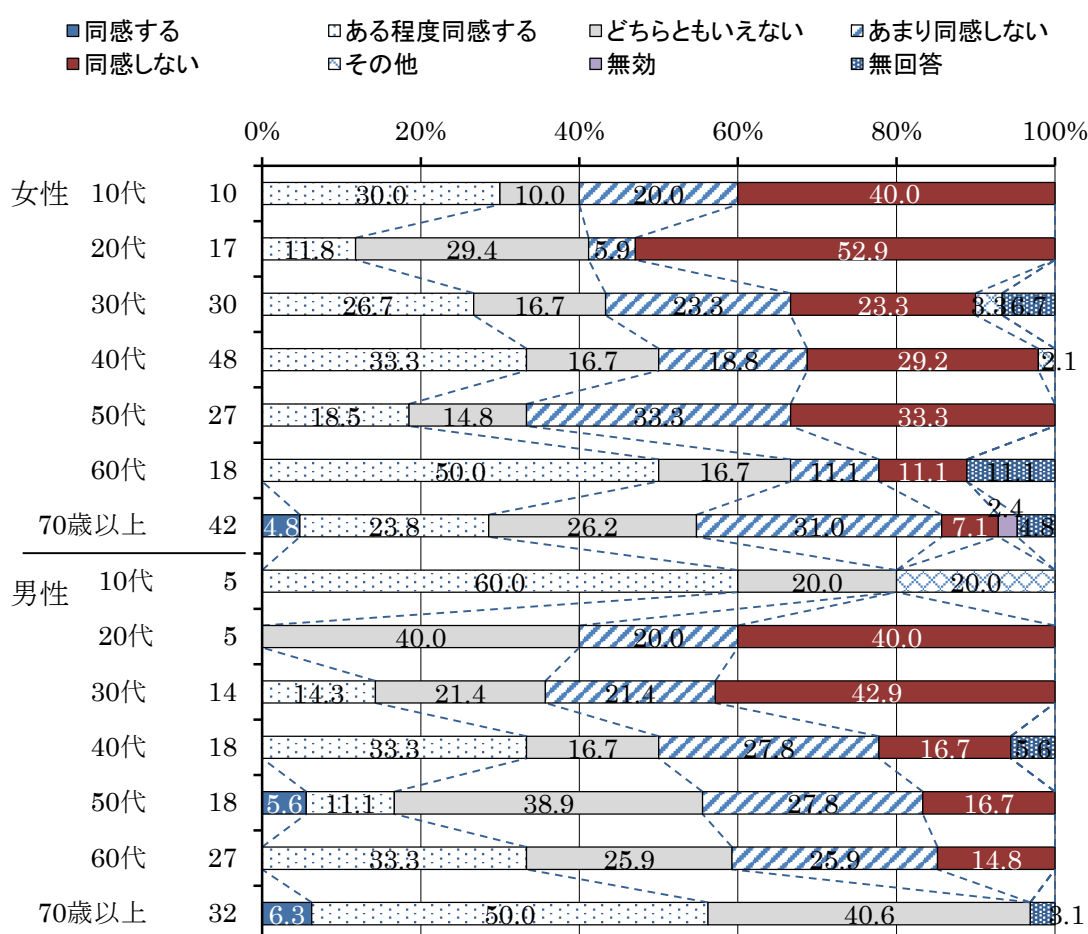
男女別では、“同感する”の割合は、女性28.6%、男性34.4%と、男性の方が高くなっています。

年齢別では、60代女性と、10代と70代以上男性で“同感する”の割合が高くなりました。

図 男女別 「男は仕事、女は家庭」についての考え方について



男女別 年代別「男は仕事、女は家庭」についての考え方について



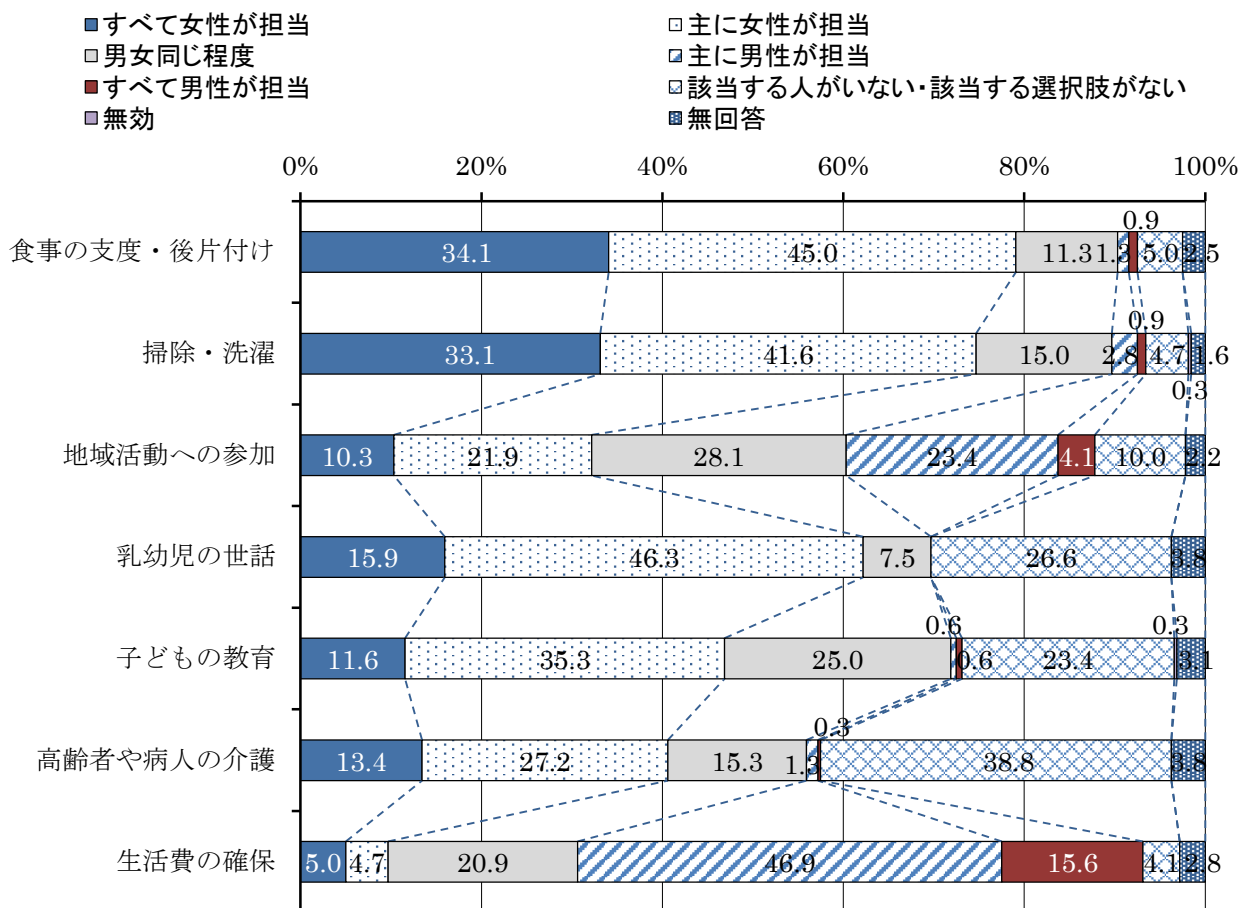
問4 あなたのご家庭での男女の役割について、現状をお答えください。また、理想をお答えください。
(①から⑦でそれぞれ1つに○)

「すべて女性が担当」「主に女性が担当」を合計した“女性が担当”の割合が高いものとして、食事の支度・後片付け 79.1%、掃除・洗濯 74.7%、乳幼児の世話 62.2%があります。

これは、前回調査では、食事 85.4%、掃除・洗濯 81.6%であり、これらは“女性が担当”する割合が減少し、乳幼児の世話（前回：47.1%）は、増加しました。ただし、「該当する人がいない」「無回答」「無効」の比率が前回と大きく異なるため、単純に比較はできません。

逆に、「すべて男性が担当」「主に男性が担当」を合計した“男性が担当”の割合が高いものとしては、生活費の確保 62.5%があります。前回の数値では 66.5%で、やや減少しました。

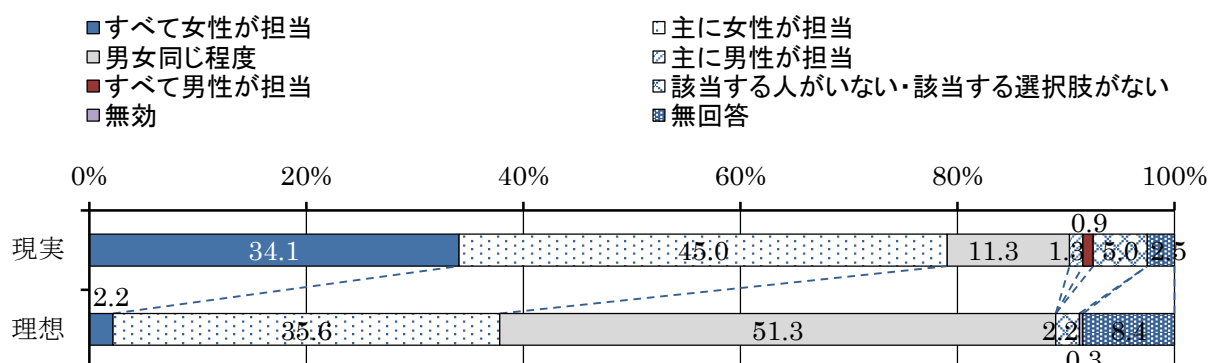
図 家庭での男女の役割 [現状]



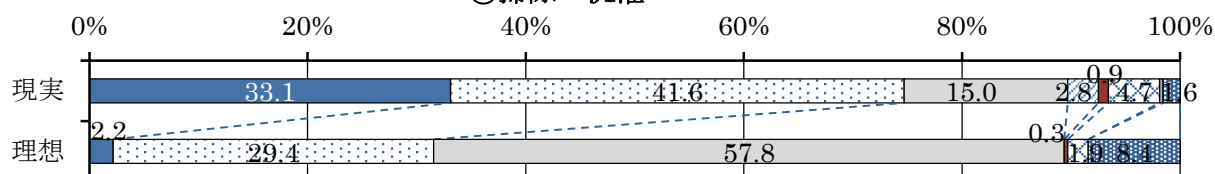
(1) 現実と理想の比較

各項目の男女の役割の「理想」については、「男女ともに同じ程度」という答えが多く、特に多いものとしては、地域活動への参加 69.7%、子どもの教育 64.7%、高齢者や病人の介護 59.7%がありました。「男女ともに同じ程度」の比率がやや低いものとしては、生活費の確保 45.3%、乳幼児の世話 46.3%があり、生活費の確保では、“男性が担当”が 38.7%、乳幼児の世話では“女性が担当”が 28.1%を占めました。

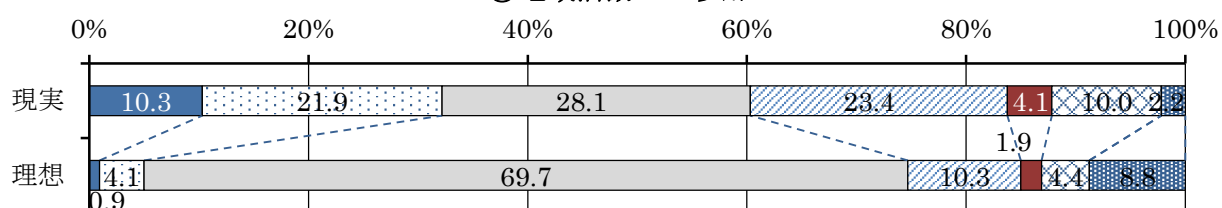
①食事の支度・後片付け



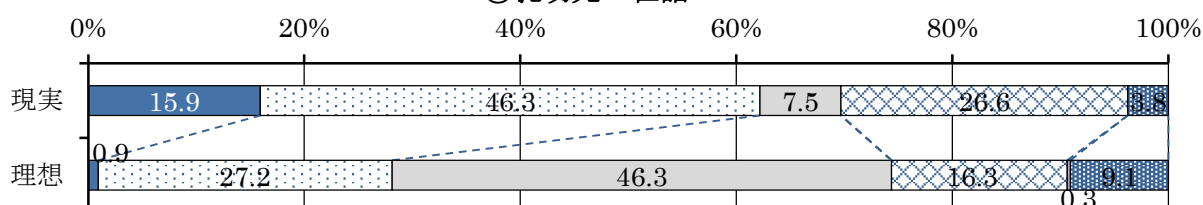
②掃除・洗濯



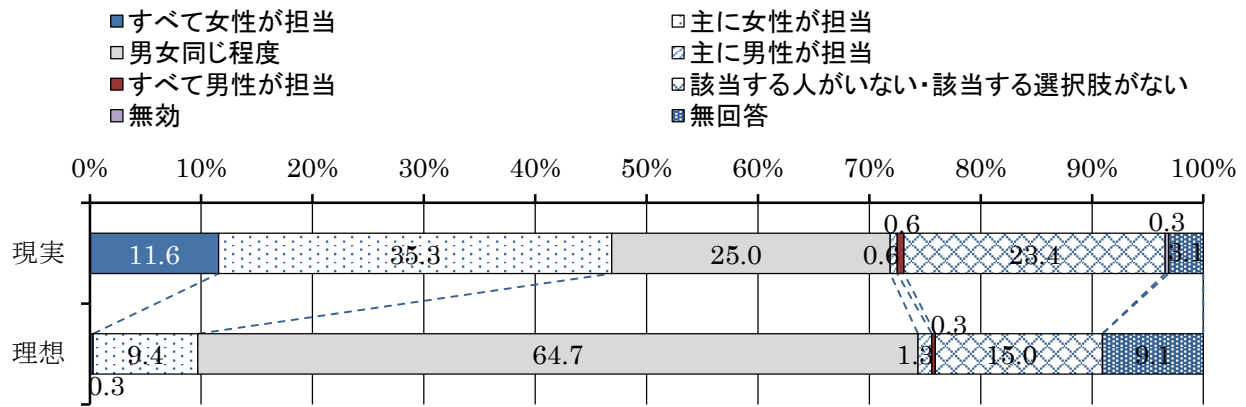
③地域活動への参加



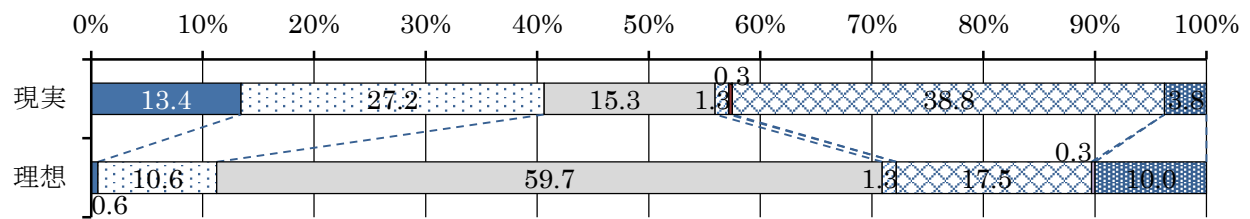
④乳幼児の世話



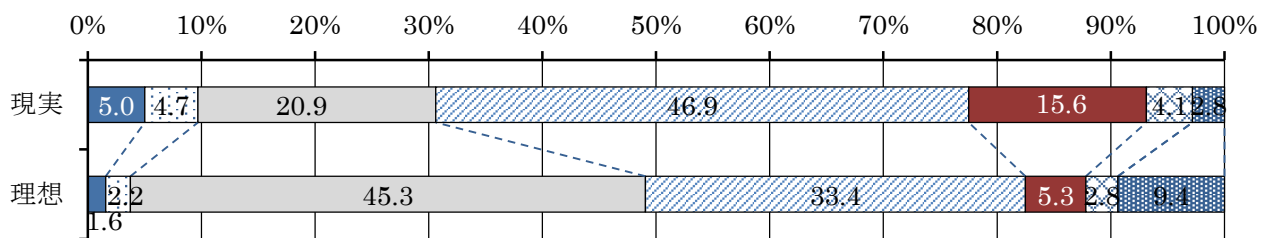
⑤子どもの教育



⑥高齢者や病人の介護



⑦生活費の確保



(2) 男女別

現実で“女性が担当”しているという回答で、男女別の差異が大きな項目として、掃除・洗濯（女性 78.6%、男性 68.9%）、地域活動への参加（女性 40.6%、男性 21.0%）、高齢者や病人の介護（女性 45.8%、男性 32.7%）がありました。実態と認識に差が存在する可能性も考えられます。

理想については、「男女ともに同じ程度」の回答が、男性に多いものとして、地域活動への参加（男性 74.8%、女性 68.2%）、乳幼児の世話（男性 51.3%、女性 43.2%）、「掃除・洗濯」（男性 61.3%、女性 56.8%）があります。その他は、男女別の差異はあまり大きくありませんでした。

表 男女別 家庭での男女の役割 現実と理想

単位：%

		①食事の支度・後片付け								
		回答数	すべて女性が担当	主に女性が担当	男女同じ程度	主に男性が担当	すべて男性が担当	該当する人がいない・該当する選択肢がない	無効	無回答
女性	現実	100.0	38.7	41.3	11.3	0.7	0.0	5.3	0.0	2.7
	理想	100.0	1.3	34.7	54.0	0.0	0.0	4.0	0.0	6.0
男性	現実	100.0	18.4	55.2	12.6	3.4	2.3	6.9	0.0	1.1
	理想	100.0	1.1	35.6	52.9	0.0	0.0	0.0	1.1	9.2
		②掃除・洗濯								
女性	現実	100.0	41.1	37.5	13.5	2.1	0.0	4.2	0.0	1.6
	理想	100.0	3.6	30.2	56.8	0.0	0.0	3.1	0.0	6.3
男性	現実	100.0	20.2	48.7	17.6	4.2	2.5	5.9	0.8	0.0
	理想	100.0	0.0	27.7	61.3	0.0	0.8	0.0	0.0	10.1
		③地域活動への参加								
女性	現実	100.0	15.6	25.0	26.0	18.8	2.1	10.4	0.0	2.1
	理想	100.0	1.6	4.2	68.2	12.5	2.1	5.2	0.0	6.3
男性	現実	100.0	2.5	18.5	31.1	30.3	7.6	9.2	0.0	0.8
	理想	100.0	0.0	4.2	74.8	5.9	1.7	2.5	0.0	10.9
		④乳幼児の世話								
女性	現実	100.0	17.7	42.7	7.3	0.0	0.0	29.2	0.0	3.1
	理想	100.0	0.5	29.2	43.2	0.0	0.0	20.3	0.5	6.3
男性	現実	100.0	11.8	54.6	7.6	0.0	0.0	22.7	0.0	3.4
	理想	100.0	0.8	25.2	51.3	0.0	0.0	10.9	0.0	11.8

表 男女別 家庭での男女の役割 現実と理想

単位：％

⑤子どもの教育										
		回答数	すべて女性が担当	主に女性が担当	男女同じ程度	主に男性が担当	すべて男性が担当	該当する人がいない・該当する選択肢がない	無効	無回答
女性	現実	100.0	15.1	32.8	22.9	1.0	0.0	25.0	0.5	2.6
	理想	100.0	0.5	9.4	64.1	2.1	0.5	17.2	0.0	6.3
男性	現実	100.0	5.9	39.5	28.6	0.0	1.7	21.8	0.0	2.5
	理想	100.0	0.0	9.2	66.4	0.0	0.0	12.6	0.0	11.8
⑥高齢者や病人の介護										
女性	現実	100.0	17.7	28.1	11.5	0.5	0.0	39.1	0.0	3.1
	理想	100.0	0.5	11.5	59.9	1.6	0.0	19.3	0.0	7.3
男性	現実	100.0	5.0	27.7	21.0	2.5	0.8	39.5	0.0	3.4
	理想	100.0	0.8	8.4	60.5	0.8	0.0	16.0	0.8	12.6
⑦生活費の確保										
女性	現実	100.0	6.8	6.3	21.4	45.8	13.5	3.6	0.0	2.6
	理想	100.0	2.1	3.6	45.3	34.4	3.6	4.2	0.0	6.8
男性	現実	100.0	2.5	2.5	21.0	47.9	19.3	5.0	0.0	1.7
	理想	100.0	0.8	0.0	45.4	33.6	7.6	0.8	0.0	11.8

(3)同居家族別（抜粋）

④乳幼児の世話については、現実で“女性が担当”しているという回答は、「小学生入学前の子どもがいる」家庭で88.1%と大変高く、「小学生以上の子どもがいる」家庭で74.6%でした。いずれも理想は、「男女同じ程度」が高く、各々64.3%、48.2%でした。

⑤子どもの教育については、現実で“女性が担当”しているという回答は、「小学生入学前の子どもがいる」家庭で59.5%、「小学生以上の子どもがいる」家庭で60.0%です。また、いずれも理想は、「男女同じ程度」が高く、各々78.6%、76.4%です。

現実と理想の隔たりが大きい状況になっています。

表 同居家族別 家庭での男女の役割 現実と理想

単位 : %

④乳幼児の世話										
同居家族		回答数	すべて女性が担当	主に女性が担当	男女同じ程度	主に男性が担当	すべて男性が担当	該当する人がいない・該当する選択肢がない	無効	無回答
全体	現実	320	15.9	46.3	7.5	0.0	0.0	26.6	0.0	3.8
	理想	320	0.9	27.2	46.3	0.0	0.0	16.3	0.3	9.1
子ども(小学校入学前)	現実	42	7.1	81.0	11.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	理想	42	0.0	31.0	64.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8
子ども(小学生以上)	現実	110	19.1	55.5	10.0	0.0	0.0	14.5	0.0	0.9
	理想	110	0.9	36.4	48.2	0.0	0.0	9.1	0.0	5.5

表 同居家族別 家庭での男女の役割 現実と理想

単位 : %

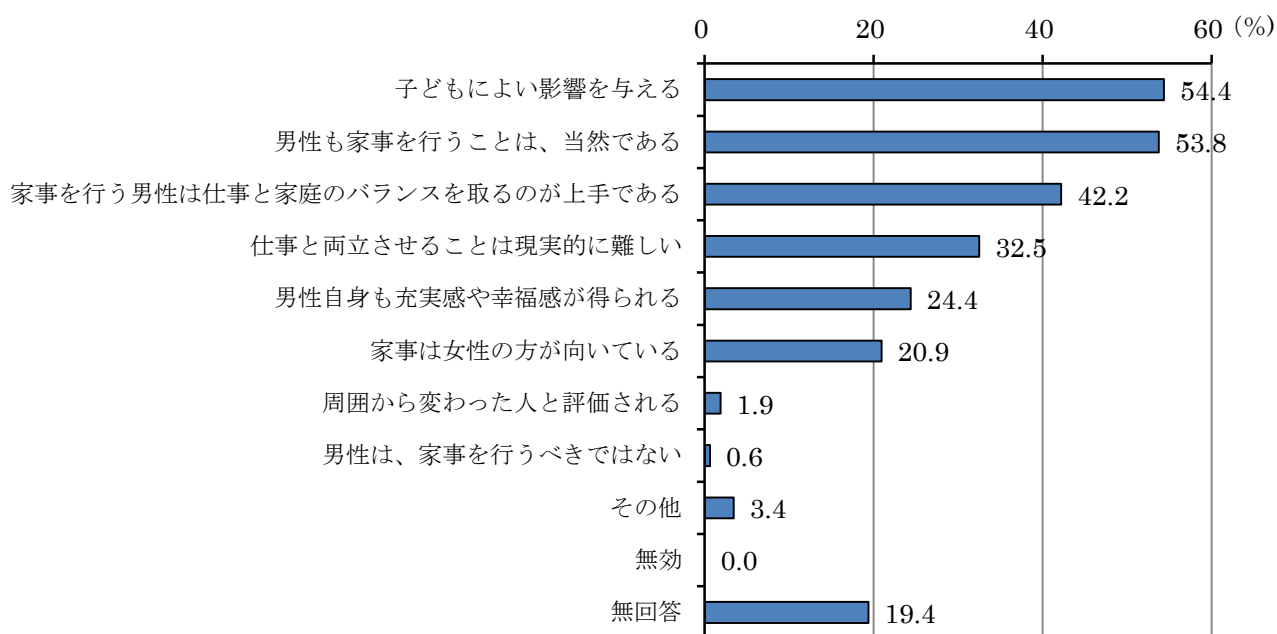
⑤子どもの教育										
同居家族		回答数	すべて女性が担当	主に女性が担当	男女同じ程度	主に男性が担当	すべて男性が担当	該当する人がいない・該当する選択肢がない	無効	無回答
全体	現実	320	11.6	35.3	25.0	0.6	0.6	23.4	0.3	3.1
	理想	320	0.3	9.4	64.7	1.3	0.3	15.0	0.0	9.1
子ども(小学校入学前)	現実	42	7.1	52.4	38.1	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0
	理想	42	0.0	11.9	78.6	2.4	0.0	2.4	0.0	4.8
子ども(小学生以上)	現実	110	12.7	47.3	28.2	0.9	1.8	9.1	0.0	0.0
	理想	110	0.9	8.2	76.4	2.7	0.0	6.4	0.0	5.5

問5 あなたは、男性が家事を行うことについて、どのようなイメージを持っていますか。
(〇は3つまで)

「子どもにより影響を与える」54.4%、「男性も家事を行うことは、当然である」53.8%、「家事を行う男性は仕事と家庭のバランスを取るのが上手である」42.2%と、肯定的にとらえる回答が多く、「周囲から変わった人と評価される」1.9%、「男性は、家事を行うべきではない」0.6%といった否定的なイメージはわずかでした。

他方で、「仕事と両立させることは現実的に難しい」32.5%といった回答も一定程度あります。

図 男性が家事を行うことのイメージ



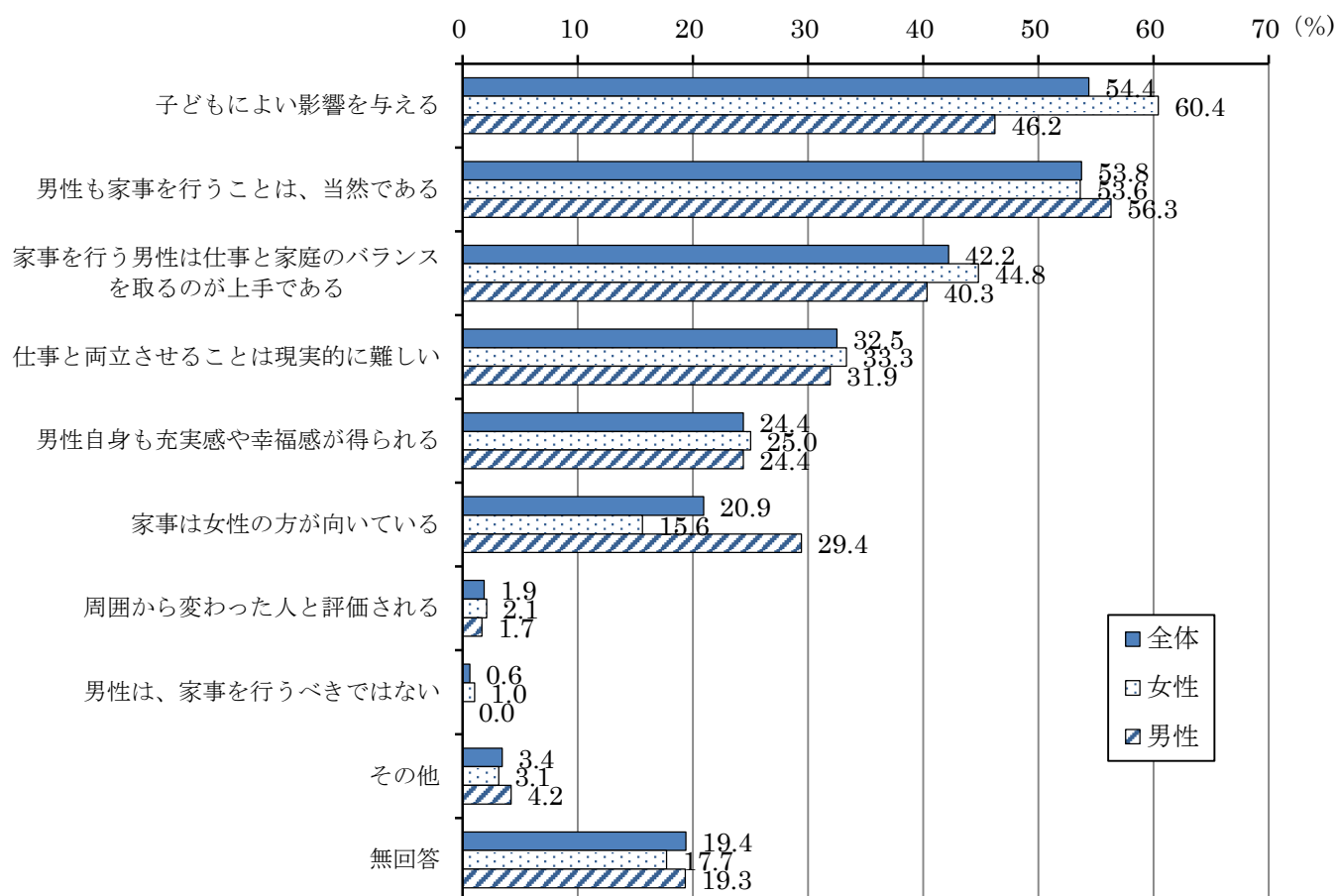
●その他回答

- ・ お互いに良く相談して時間的に都合の良い方が担当する。
- ・ それぞれ向き・不向きがあるので”家事”と規定するのは現実的ではない
- ・ 時間的に厳しい面も多少なりともあるが、手の空いた時などコミュニケーションをとるという点においても家事をするのが最適だと思う。
- ・ 男性も家事をする事によって独居生活を強いられた時困らない。
- ・ なんとも思わない。
- ・ 女性も家事が得意な人とは限らない。得意な人（性別関係なく）がやるといい
- ・ 家事を行うことが全ではない。あたり前の思想であるべき
- ・ すべての文章に付いて家庭に男性が居ない、女性だけの家庭の為、現実的にすべてが難しい問題である
- ・ 男性もした方がいい
- ・ 困った時、手を借り、時々台所に立つのは良い事です。
- ・ 女性である、事が（以下解説不明）

(1) 男女別

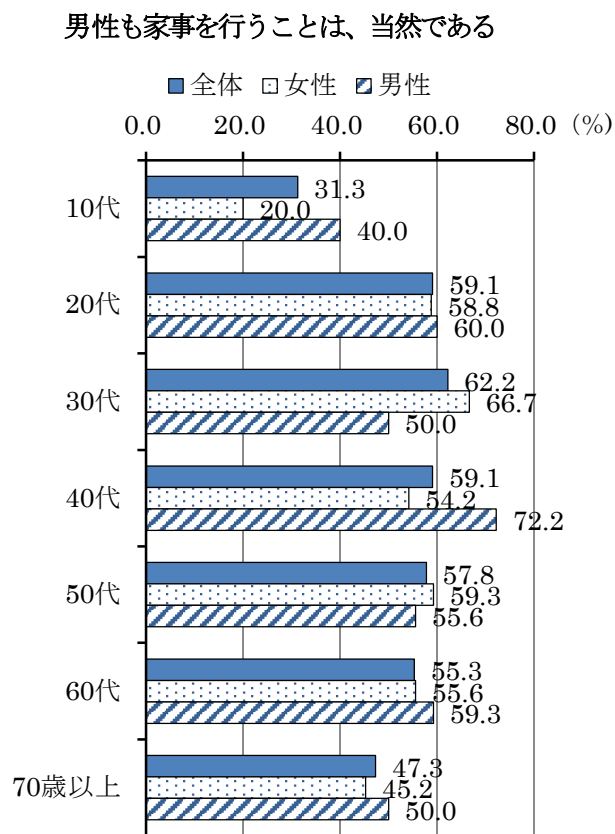
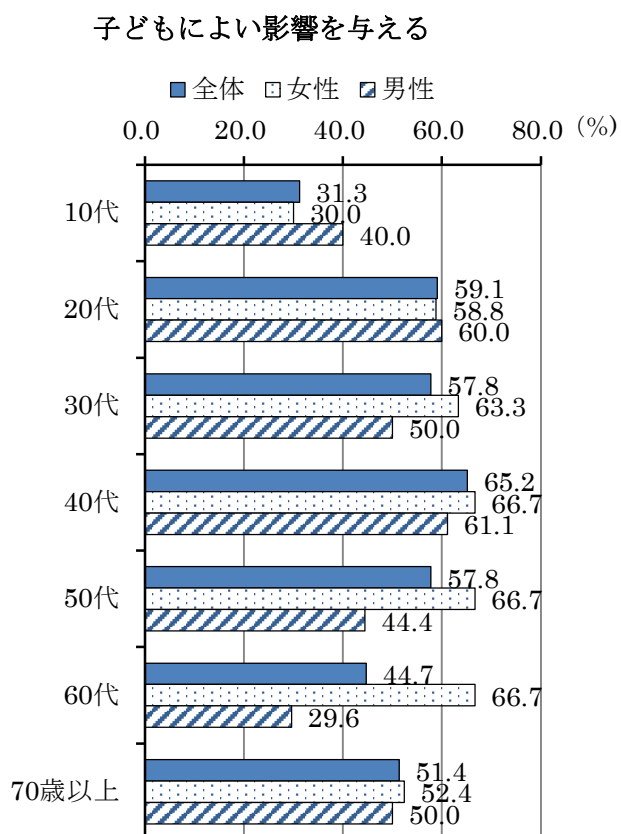
男女別で回答の差異が大きなものとして、「子どもにより影響を与える」は女性が男性に比べて割合が高く（女性 60.4%、男性 46.2%）、逆に、「家事は女性の方が向いている」は男性が女性に比べて割合が高く（女性 15.6%、男性 29.4%）になりました。

図 男女別 男性が家事を行うことのイメージ

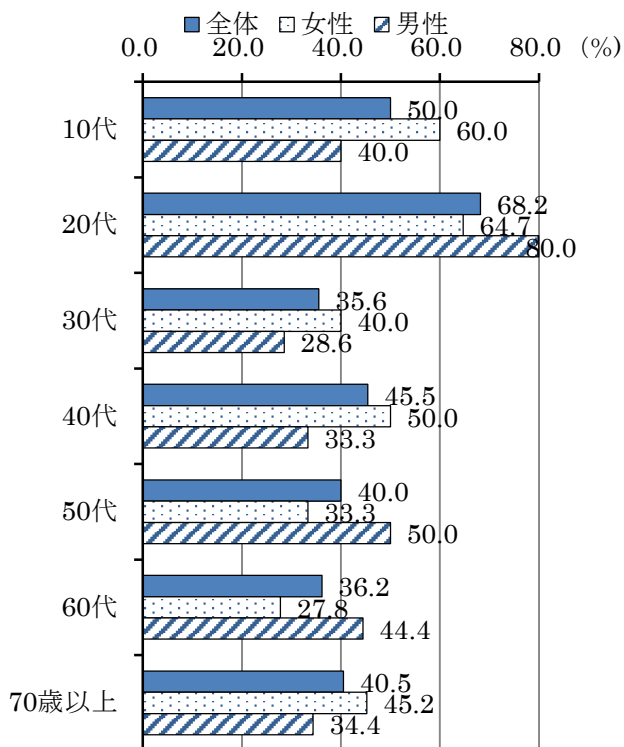


(2) 男女別・年代別

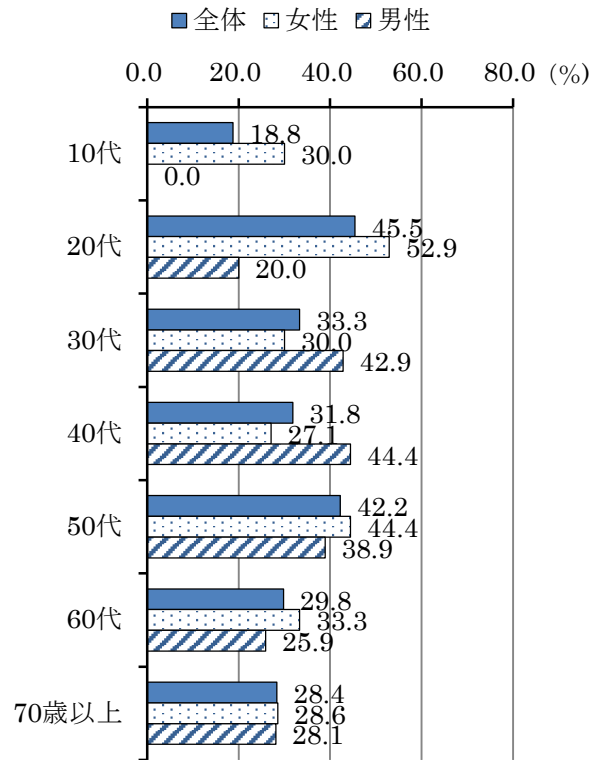
- ・「子どもにより影響を与える」は、20代~40代で男女ともに高く、50代・60代では女性が男性に比べて高くなりました。
- ・「男性も家事を行うことは、当然である」は、10代では低い割合になりました。
- ・「家事を行う男性は仕事と家庭のバランス取るのが上手である」は、10代、20代で高い数値になっており、また、30代・40代では女性で比較的高く、50代・60代では男性で高くなっています。
- ・「仕事と両立させることは現実的に難しい」は、20代女性が52.9%と特に高く、30代40代では男性が、50代では男女ともに高く40%前後となりました。
- ・「男性自身も充実感や幸福感が得られる」は、60代で男女ともに高い傾向がみられました。
- ・「家事は女性の方が向いている」は、60代・70代以上で高く、特に70代以上男性では46.9%にのびりました。



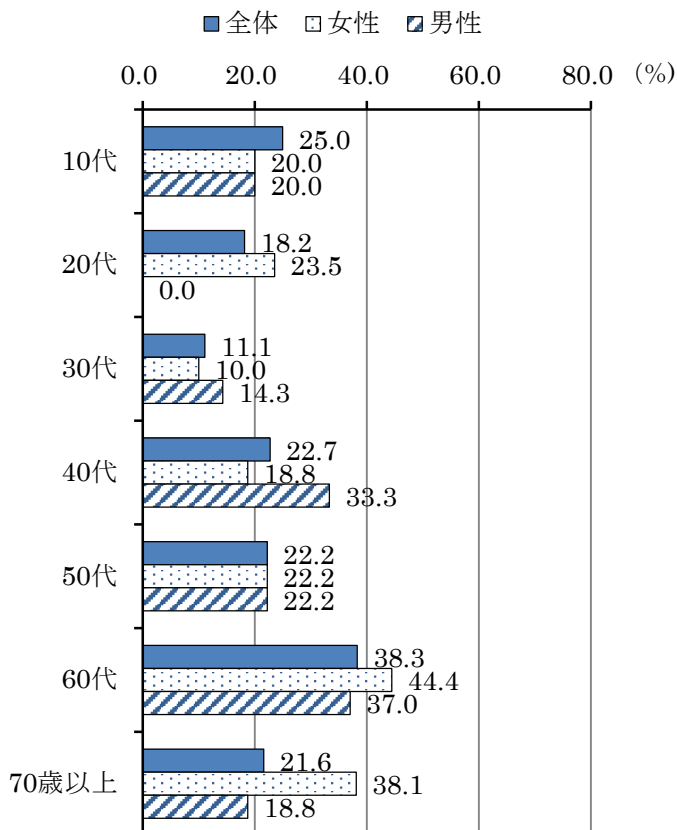
家事を行う男性は仕事と家庭のバランスを取るのが上手である



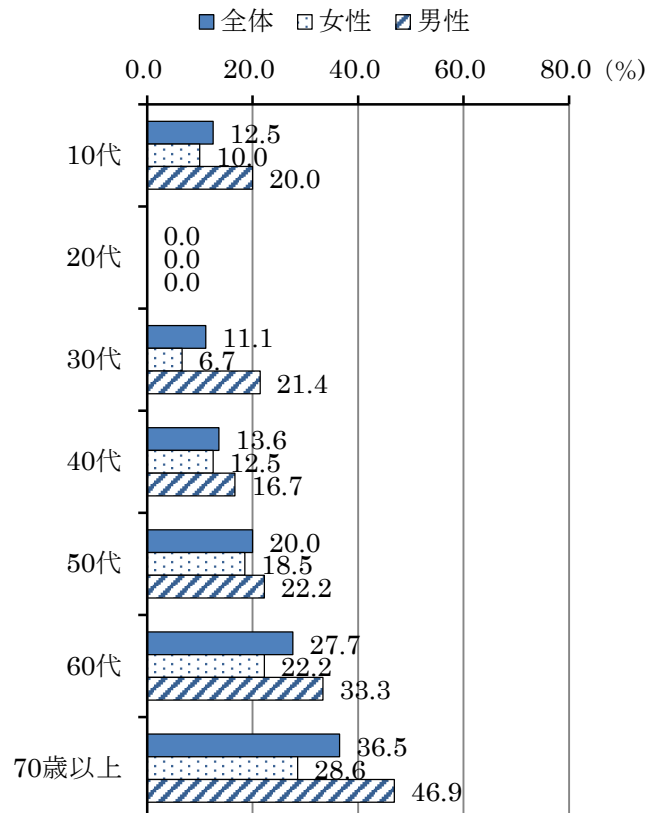
仕事と両立させることは現実的に難しい



男性自身も充実感や幸福感が得られる



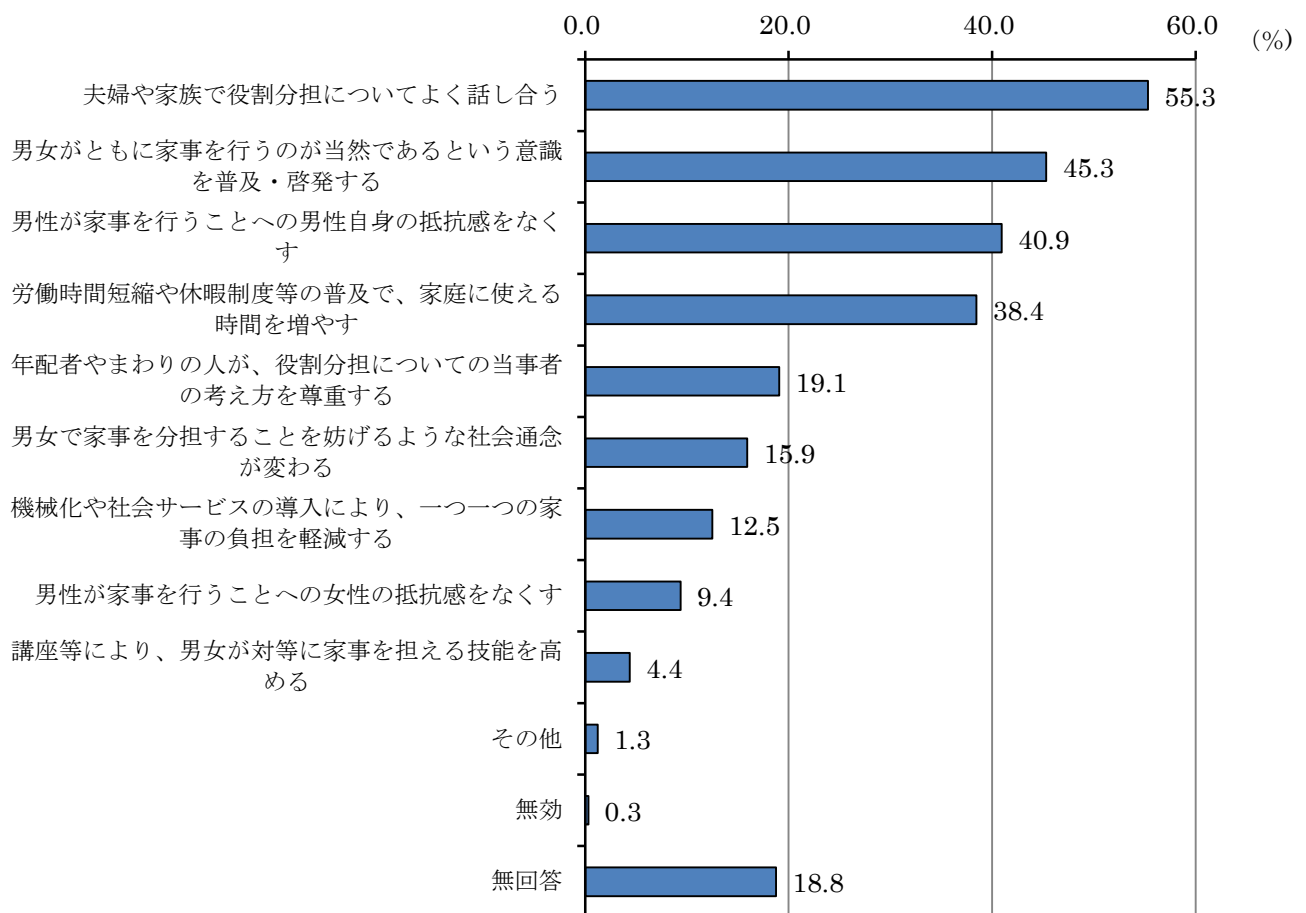
家事は女性の方が向いている



**問6 家庭の中での、炊事、洗濯、掃除などの家事を男女がともに担うために必要だと思うことは何ですか。
(〇は3つまで)**

「夫婦や家族で役割分担についてよく話し合う」55.3%、「男女がともに家事を行うのが当然であるという意識を普及・啓発する」45.3%、「男性が家事を行うことへの男性自身の抵抗感をなくす」40.9%、「労働時間短縮や休暇制度等の普及で、家庭に使える時間を増やす」38.4%が上位にあがりました。

図 家事の男女分担のために必要だと思うこと



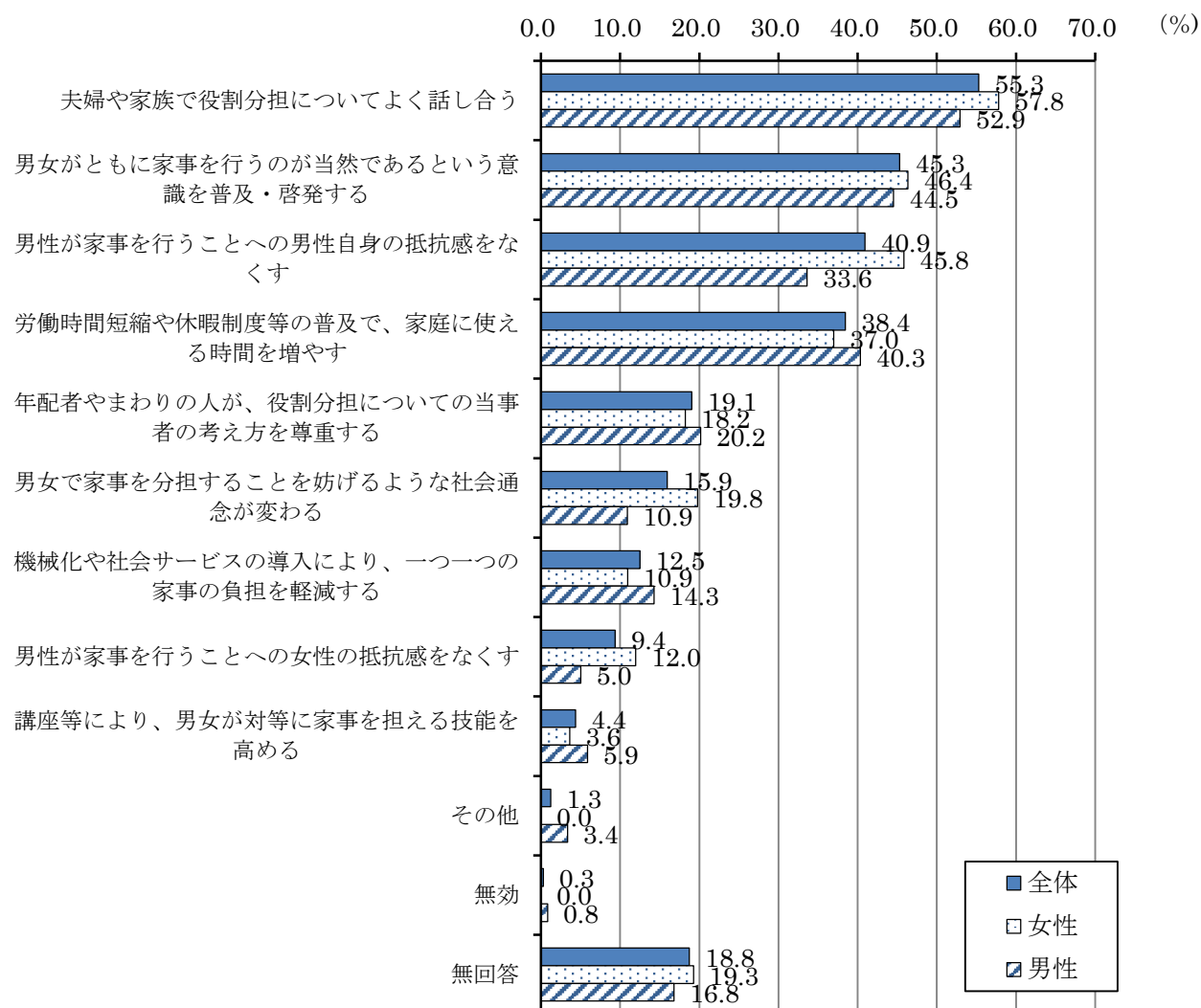
●その他回答

- ・相手による！
- ・正社員、パートを男女入れ換えても収入が変わらないか、それ以上の社会
- ・どちらか得意な事をやる 例. 炊事→男 そうじ→女 洗たく→女
- ・男性のやり方を女性がある程度認め、文句を言わない

(1) 男女別

男女別の差異が大きな項目として、「男性が家事を行うことへの男性自身の抵抗感をなくす」(女性 45.8%、男性 33.6%)、「男女で家事を分担することを妨げるような社会通念が変わる」(女性 19.8%、男性 10.9%)があります。

図 男女別 家事の男女分担のために必要だと思うこと

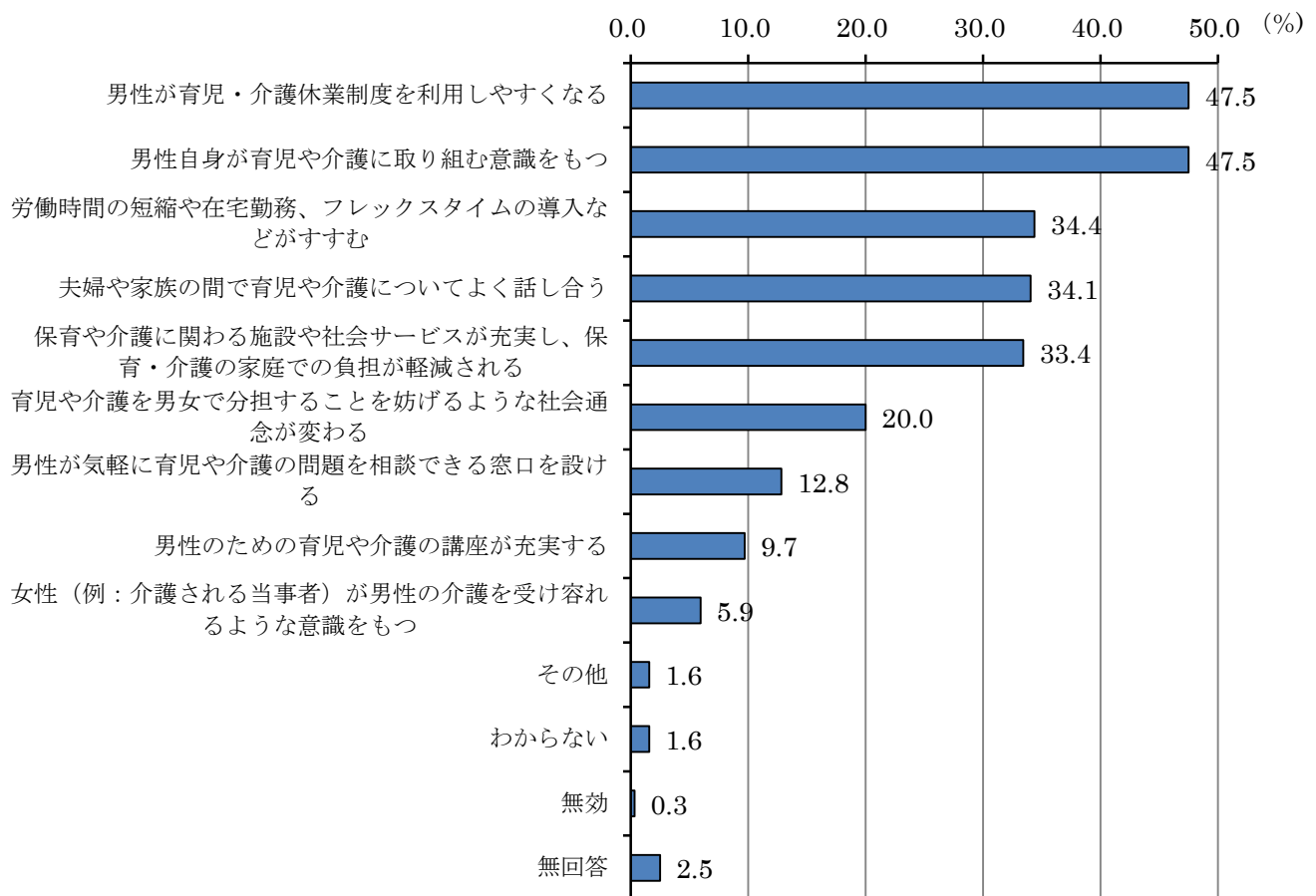


**問7 男性と女性がともに育児や介護に参加していくためには、どのようなことが重要になると思いますか。
(〇は3つまで)**

「男性が育児・介護休業制度を利用しやすくなる」「男性自身が育児や介護に取り組む意識をもつ」がともに47.5%と最も多く、次いで、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむ」34.4%、「夫婦や家族の間に育児や介護についてよく話し合う」34.1%、「保育や介護に関わる施設や社会サービスが充実し、保育・介護の家庭での負担が軽減される」33.4%となりました。

前回調査では、育児に特化した形で尋ねていますが、「男性自身が育児に取り組む意識を持つ」が56.9%、「男性が育児休業制度を利用しやすくなる」49.7%、「男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること」42.5%であり、社会通念が変化してきている状況がうかがえます。そして、当事者意識や家族間の話し合い等の主体側の努力と共に、職場環境や社会サービスの充実などの環境整備が重要視されています。

図 男女ともに育児・介護に参加するために重要なこと



●その他回答

- ・育児や介護中に収入があれば男性も参加すると思う
- ・時間の自由に関係しない給料、会社の体制（子供の病気等）
- ・子供を育てる時期、男性は会社で1番仕事が多くなり責任ある仕事が多くなる。経けんから子育て期間の女性の育児休かをもっと充実するほうが、子供のためになる
- ・育児が全ではない。それはもちろん仕事もしっかりやっていることが前提。
- ・生涯現役志向で介護負担の少ない社会の実現

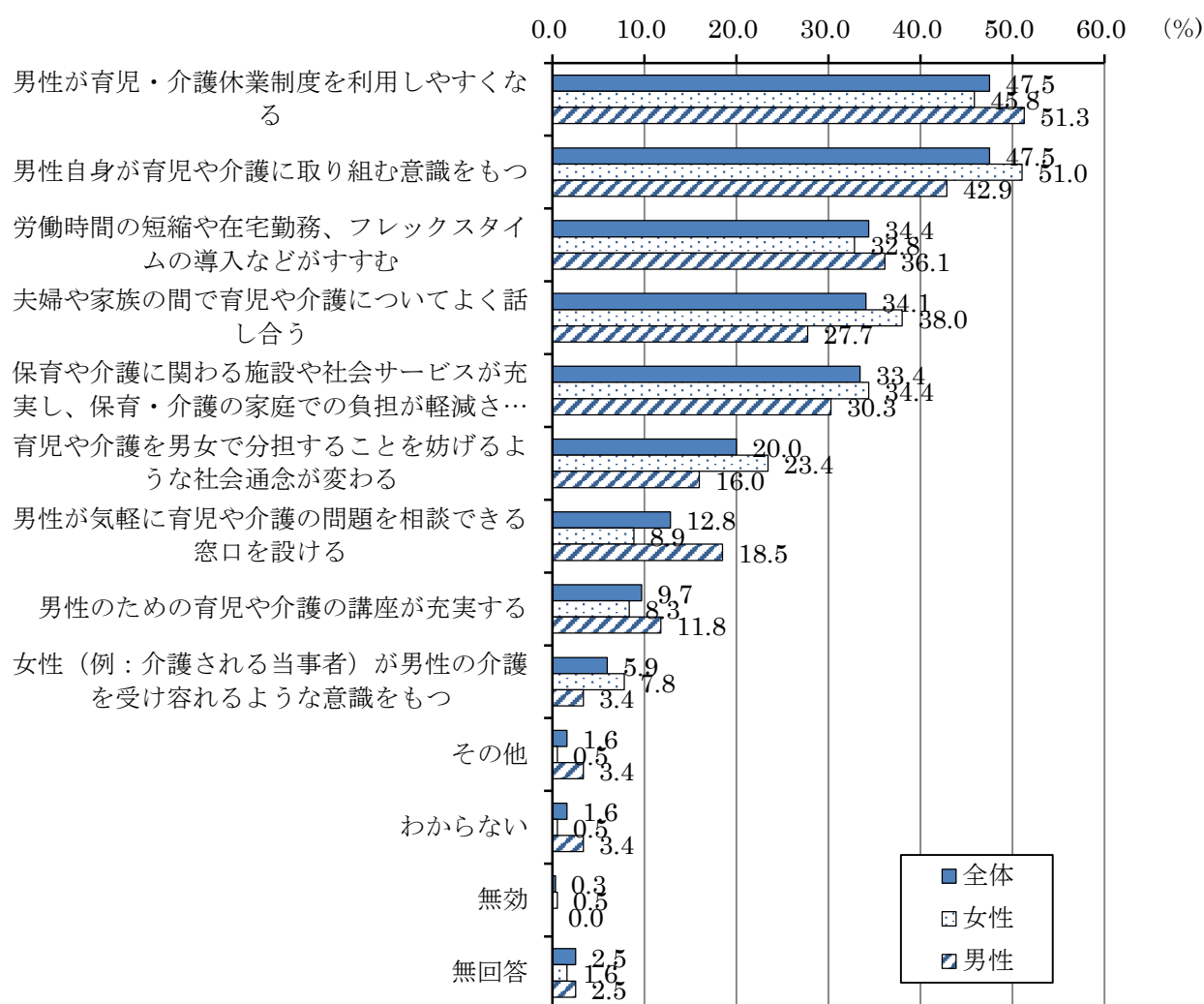
(1) 男女別

男女別の差異が大きな項目で、女性が男性に比べ高かったのは、「男性自身が育児や介護に取り組む意識をもつ」(女性 51.0%、男性 42.9%)、「夫婦や家族の間に育児や介護についてよく話し合う」(女性 38.0%、男性 27.7%) でした。

他方、男性が女性と比べて高かったのは、「男性が育児・介護休業制度を利用しやすくなる」(女性 45.8%、男性 51.3%)、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむ」(女性 32.8%、男性 36.1%) で、環境改善を重要視する傾向がみられました。

また、「男性が気軽に育児や介護の問題を相談できる窓口を設ける」(女性 8.9%、男性 18.5%) は、男性にとっての重要度の高さがうかがえました。

図 男女別 男女ともに育児・介護に参加するために重要なこと

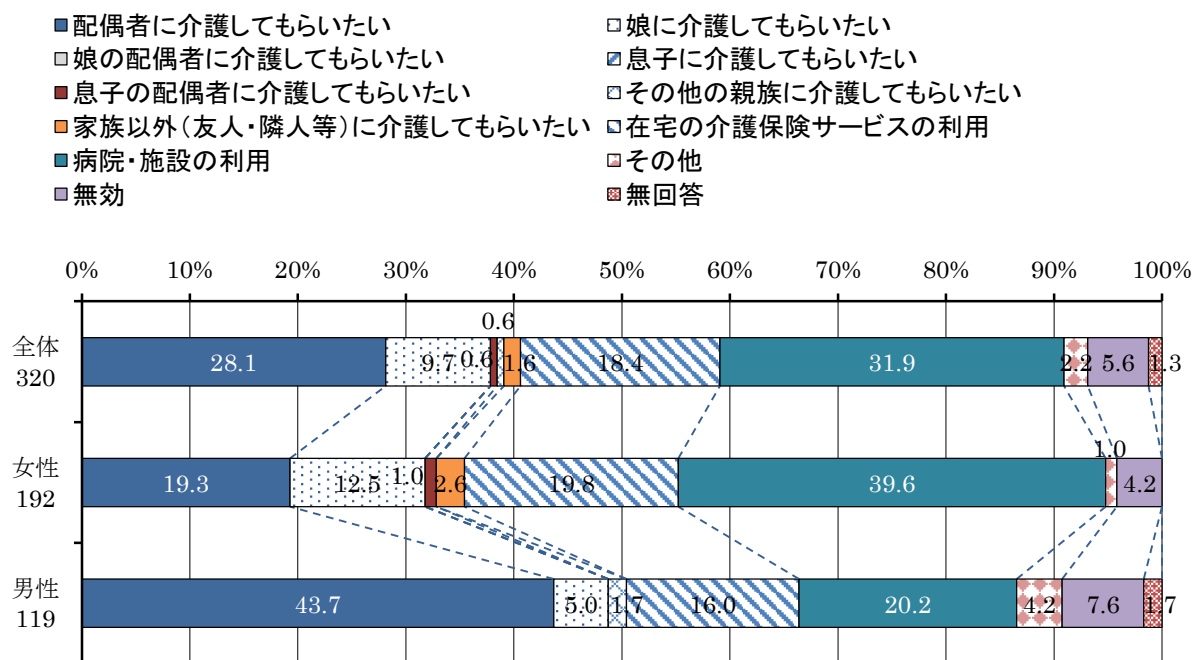


問8 将来、自分の老後の介護が必要になったとき、主に誰に介護をしてもらいたいと思いますか。（〇は1つ）

全体では、「病院や施設の利用」31.9%が最も多く、「配偶者による介護」28.1%、「在宅の介護保険サービスの利用」18.4%、「娘による介護」9.7%という順になりました。

男女別では、「病院や施設の利用」は女性39.6%、男性20.2%と、女性の方が大幅に高くなっています。一方、「配偶者による介護」は、女性では19.3%と「在宅の介護保険サービスの利用」19.8%を下回ったのに対し、男性では43.7%と非常に高い割合を占めました。また、「娘による介護」は、女性12.5%、男性5.0%と女性の意向がより高くなっています。

図 男女別 老後の介護をしてもらいたい人

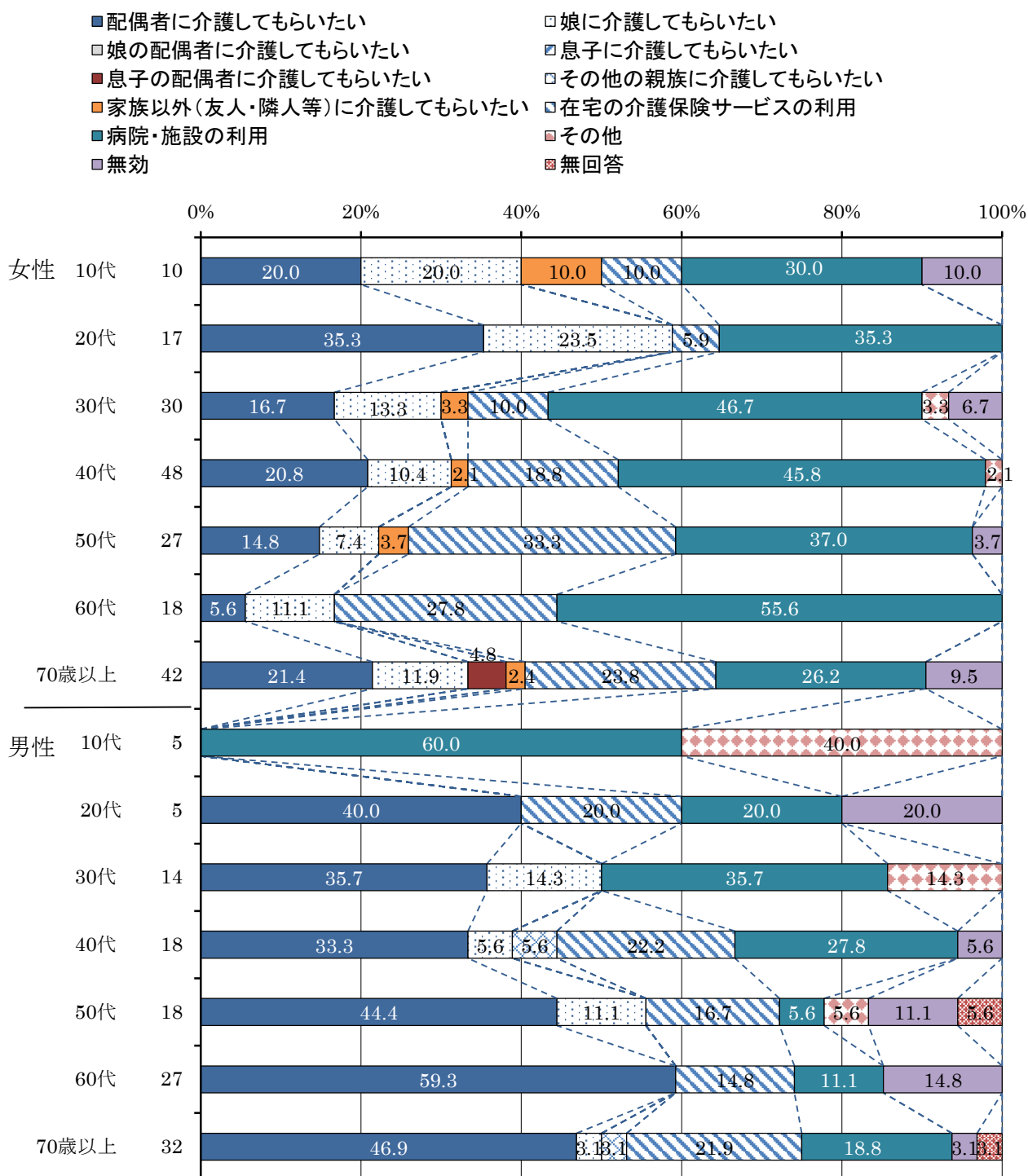


(1) 男女別・年代別

「病院・施設の利用」は、10代男性 60.0%が最も多く、ついで 60代女性 55.6%、30代と 40代女性で高い割合となりました。「配偶者による介護」は、20代～70代以上の男性全ての年代で最も多い回答ですが、特に 60代男性で 59.3%、70代以上男性 46.9%、50代男性 44.4%が高くなっています。

また、「在宅の介護保険サービス」は、50代女性で 33.3%と高く、60代女性 27.8%、70代以上女性 23.8%も比較的高い結果でした。また、70代以上男性も、21.9%にのびりました。

図 男女別 年代別 老後の介護をしてもらいたい人

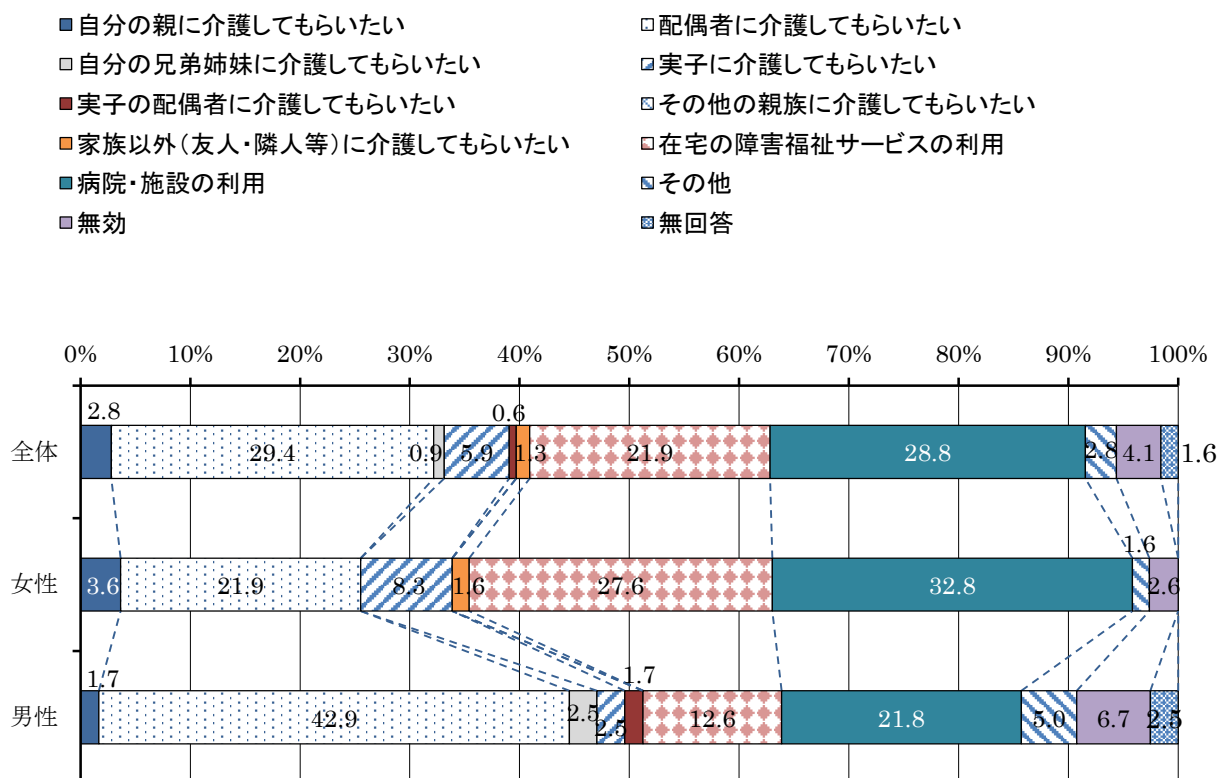


問9 自分が障害を負ったとき、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。(〇は1つ)

全体では、「配偶者による介護」29.4%が最も多く、続いて「病院や施設の利用」28.8%、「在宅の障害福祉サービスの利用」21.9%、「実子による介護」5.9%という順になりました。

男女別では、「病院や施設の利用」は女性 32.8%、男性 21.8%と、女性の方が高く、「配偶者による介護」は、女性では 21.9%、男性 42.9%と、高齢時の介護と同様、男性では高い割合を占めています。また、「在宅の障害福祉サービスの利用」は女性で 27.6%、男性では 12.6%と女性で高い割合となりました。

図 男女別 障害を負ったとき介護してもらいたい人



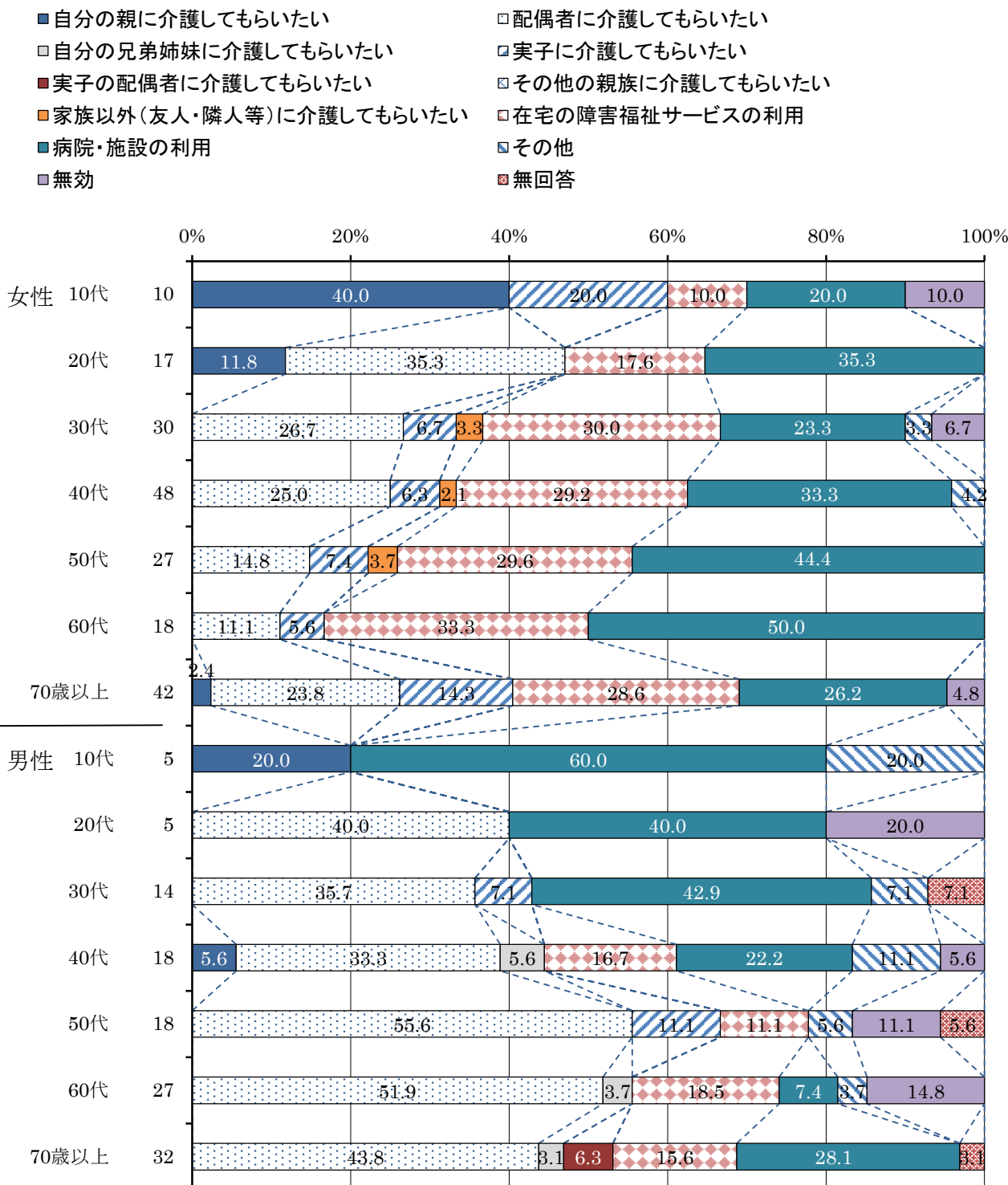
(1) 男女別・年代別

「病院・施設の利用」は、10代男性 60.0%が最も多く、ついで 60代女性 50.0%、50代女性で 44.4%となりましたが、加えて 30代男性 42.9%、20代男性 40.0%も高い数値となりました。

他方、「配偶者による介護」は、50代~70代の男性で高く、50代男性 55.6%、60代男性 51.9%、70代以上男性 43.8%となっています。

また、「在宅の介護保険サービス」は、60代女性で 33.3%と高く、30代~50代、及び 70代以上女性において 30%前後にのぼっています。

図 男女別 年代別 障害を負ったとき介護をしてもらいたい人



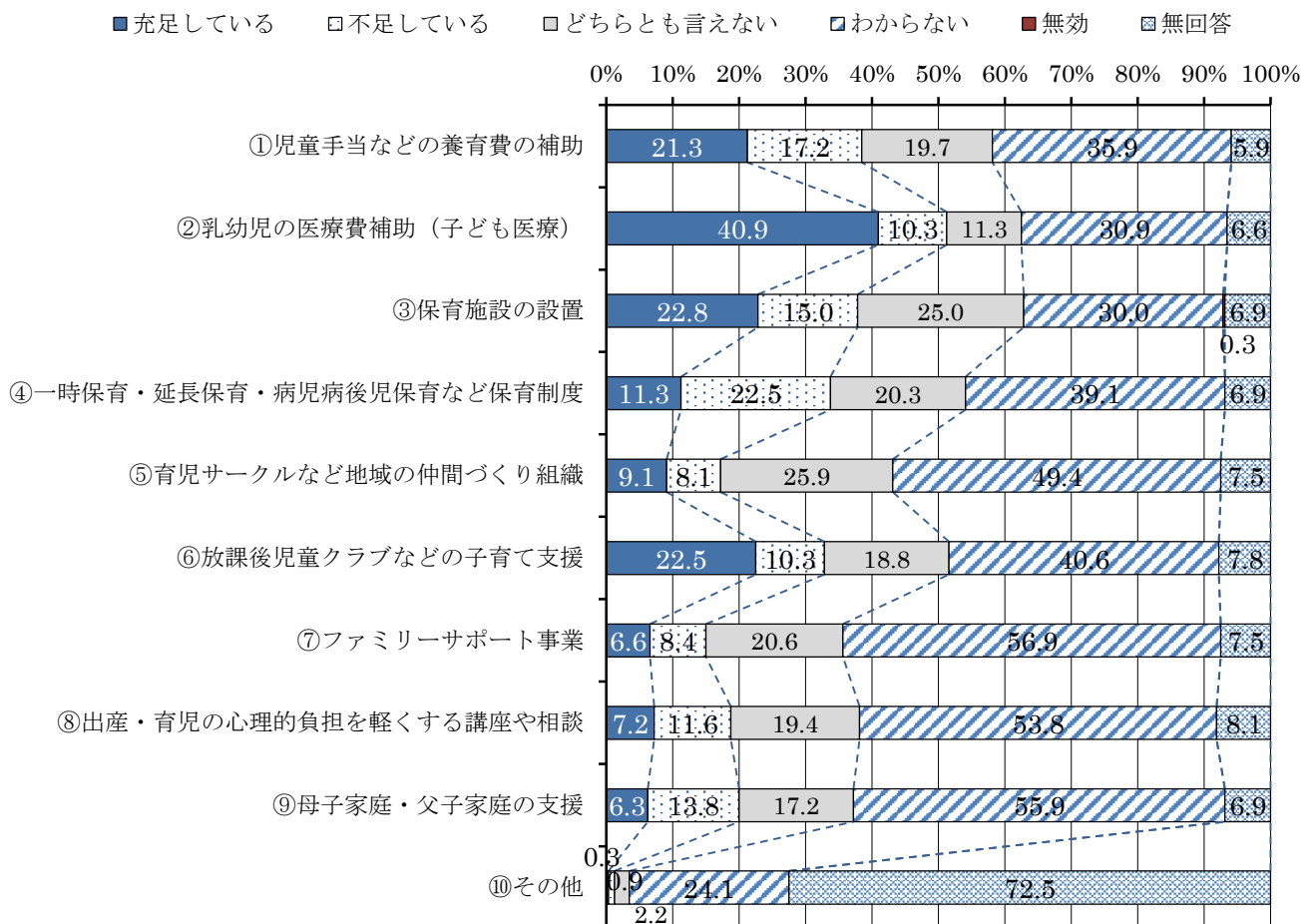
問 10 安心して子どもを産み育てるために、町が行っている事業に関する充足度についてお聞かせください。
(①から⑩でそれぞれ1つに○)

「充足している」の割合が高いものとして、「乳幼児の医療費制度」40.9%、「放課後児童クラブなどの子育て支援」22.5%があげられます。また、「保育施設の設置」22.8%「児童手当などの養育費の補助」21.3%は、「充足している」も一定程度ありますが、「不足している」が各々15.0%、17.2%であり、評価が分かれています。

「不足している」が最も高かったのが、「一時保育・延長保育・病児病後児保育など保育制度」22.5%でした（「充足している」は11.3%）。

また、「わからない」の回答が多いものとして、「ファミリーサポート事業」56.9%、「母子家庭・父子家庭の支援」55.9%、「出産・育児の心理的負担を軽くする講座や相談」53.8%があり、こうした事業の周知が進んでいない状況も存在します。

図 町が行う子育てに関する事業の充足度



●その他回答

- ・全部自分の責任
- ・多胎児支援と理解
- ・自分が調べてない事もあるが、何をしているのか知らない
- ・年令的にすべての内容が終了して居る為良くわからない
- ・①～⑨までのことを知らない
- ・子ども向けの行事
- ・育児休暇期間

(1) 男女別

「一時保育・延長保育・病児病後児保育など保育制度」を除いて、女性が男性より「充足している」が高い傾向にあります。男女の差異が比較的大きいものとして、「放課後児童クラブなどの子育て支援」(女性 27.1%、男性 14.3%)、「児童手当などの養育費の補助」(女性 24.5%、男性 17.6%) がありました。また、いずれも男性の方が「不足している」の回答が高い結果が出ています。

逆に、「不足している」の割合が女性に高いものとして、「一時保育・延長保育・病児病後児保育など保育制度」があり、「不足している」の回答が女性 25.5%、男性 18.5%でした。

図 男女別 児童手当などの養育費の補助

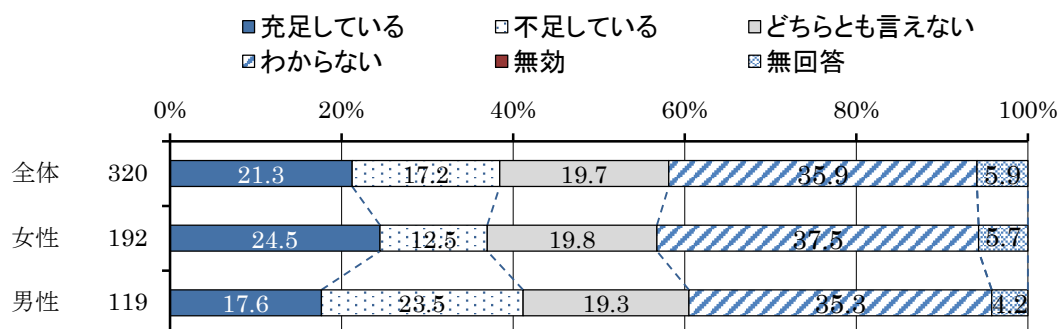


図 男女別 乳幼児の医療費補助(子ども医療)

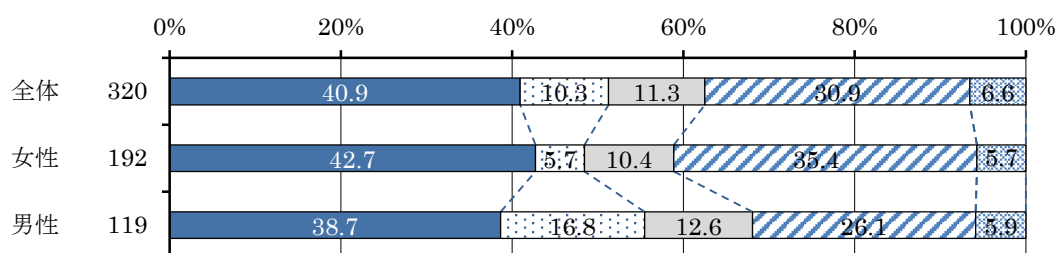


図 男女別 保育施設の設置

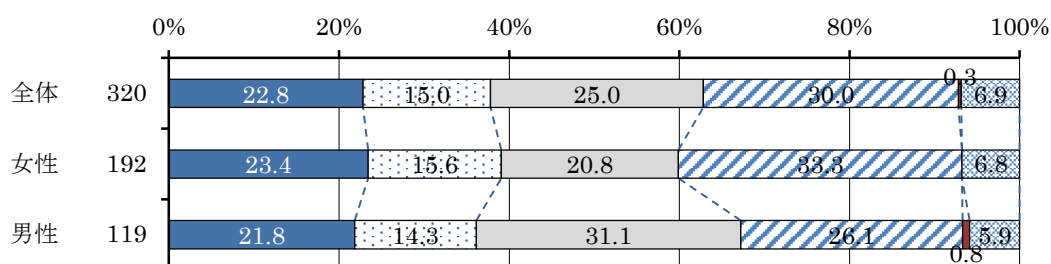


図 男女別 一時保育・延長保育・病児病後児保育など保育制度

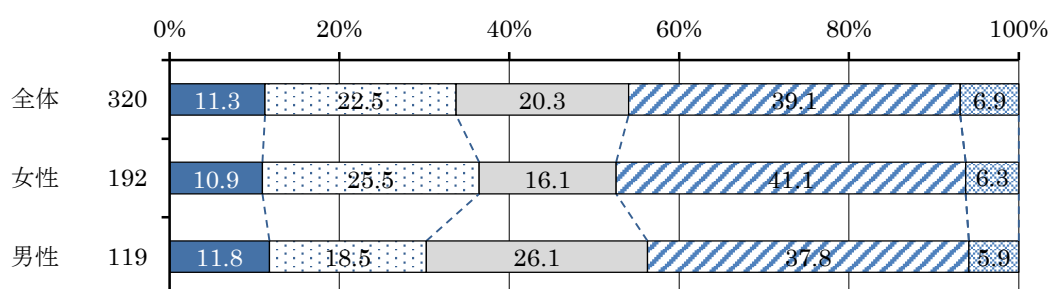


図 男女別 育児サークルなど地域の仲間づくり組織

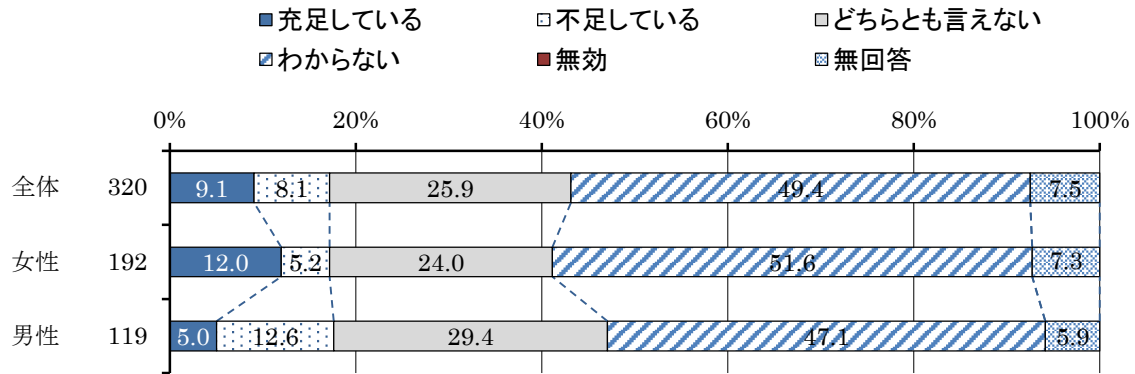


図 男女別 放課後児童クラブなどの子育て支援

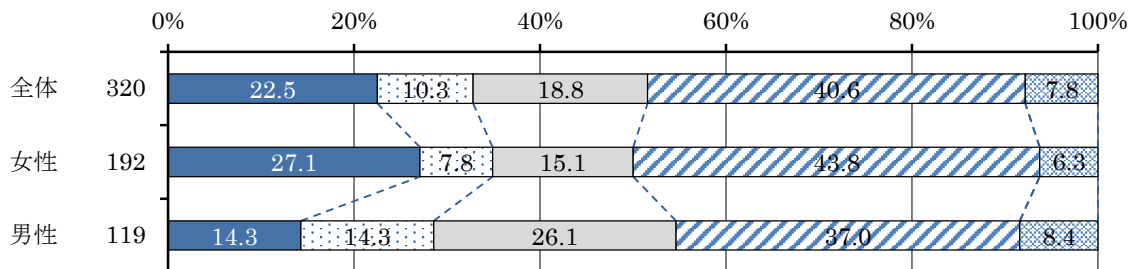


図 男女別 ファミリーサポート事業

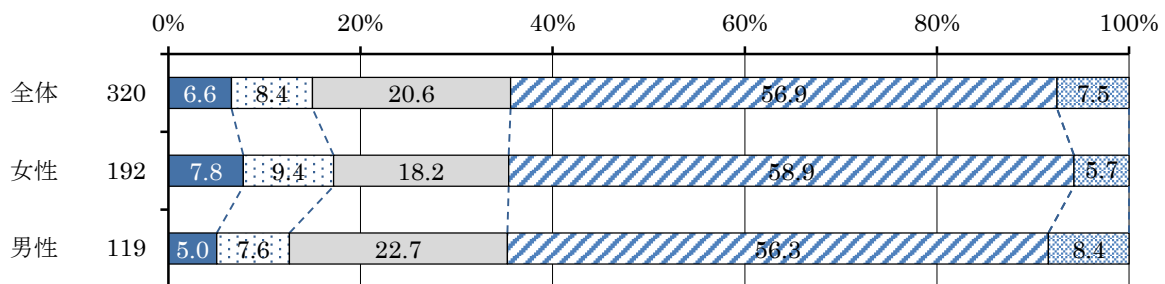


図 男女別 出産・育児の心理的負担を軽くする講座や相談

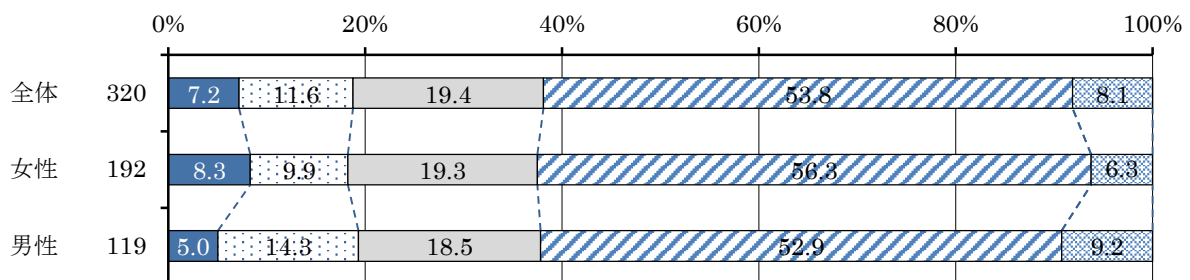
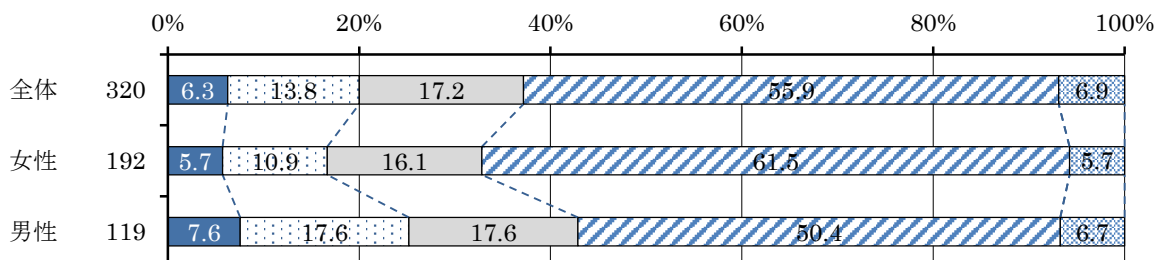


図 男女別 母子家庭・父子家庭の支援



(2) 同居家族別

全ての項目について、事業と関係が深い層で「充足している」が高くなりました。特に高いものとしては、「乳幼児の医療費補助」「児童手当などの養育費の補助」(いずれも「子ども(小学校入学前)」と暮らし層で各々85.7%、38.1%)があります。

他方、「不足している」の回答が高かったものとして、「一時保育・延長保育・病児病後児保育など保育制度」(「子ども(小学生入学前)」33.3%、「子ども(小学生以上)」27.3%)、「児童手当などの養育費の補助」各々33.3%、20.0%、「保育施設の設置」各々23.8%、13.6%、「出産・育児の心理的負担を軽くする講座や相談」各々23.8%、10.0%がありました。

図 同居家族別 児童手当などの養育費の補助

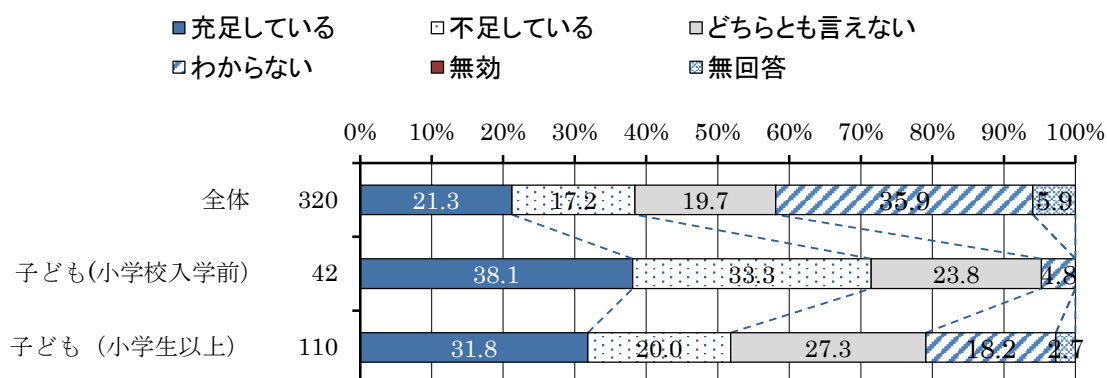


図 同居家族別 乳幼児の医療費補助(子ども医療)

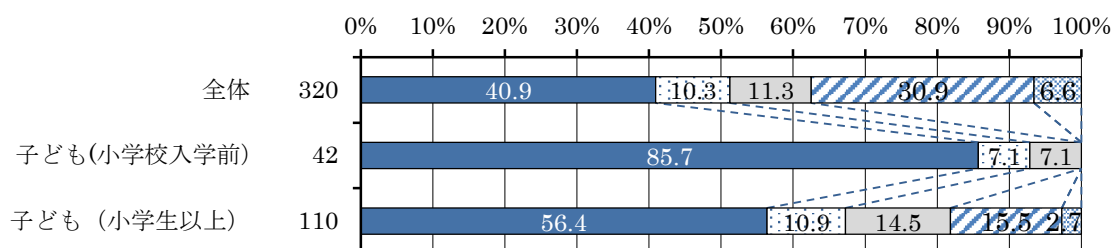


図 同居家族別 保育施設の設置

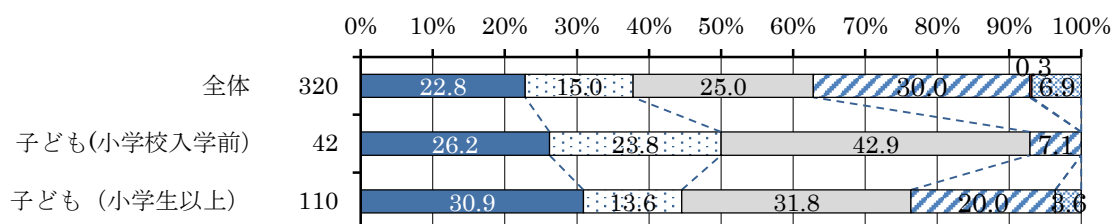


図 同居家族別 一時保育・延長保育・病児病後児保育など
保育制度

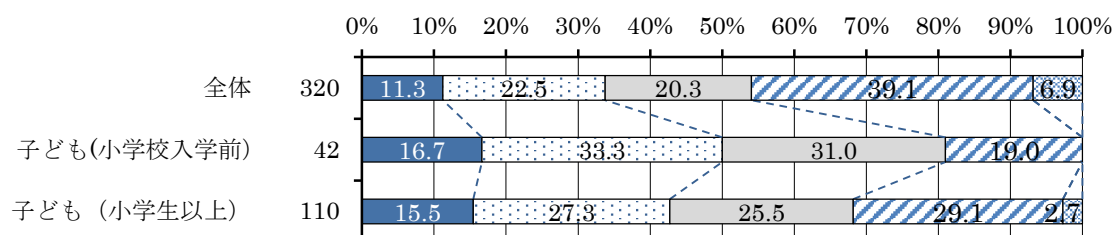


図 同居家族別 育児サークルなど地域の仲間づくり組織

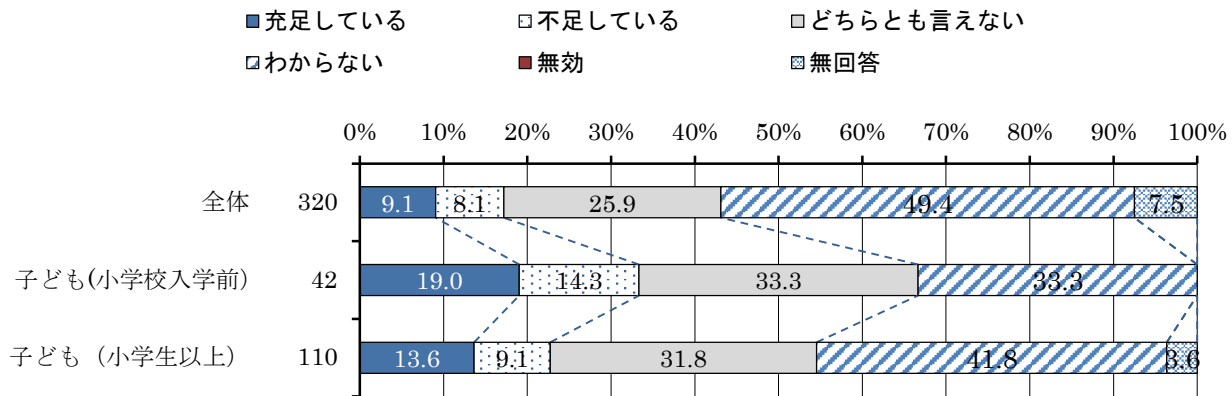


図 同居家族別 放課後児童クラブなどの子育て支援

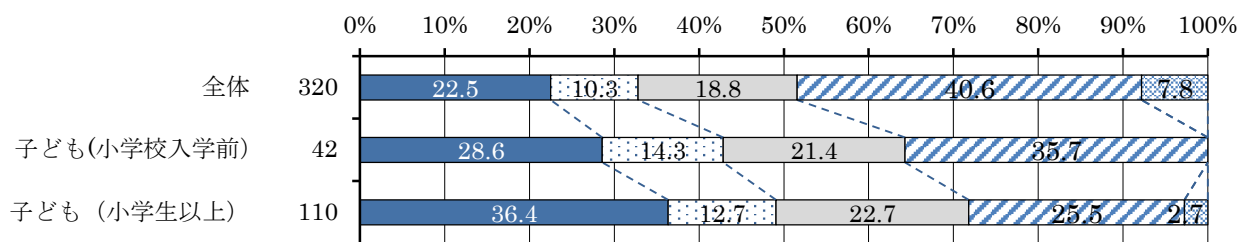


図 同居家族別 ファミリーサポート事業

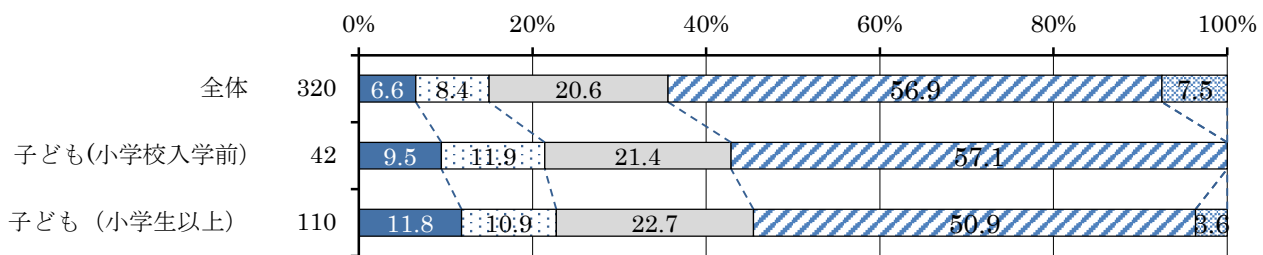


図 同居家族別 出産・育児の心理的負担を軽くする講座や相談

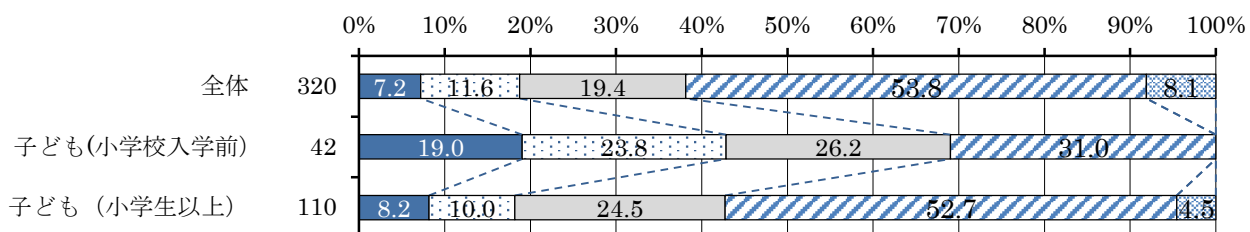
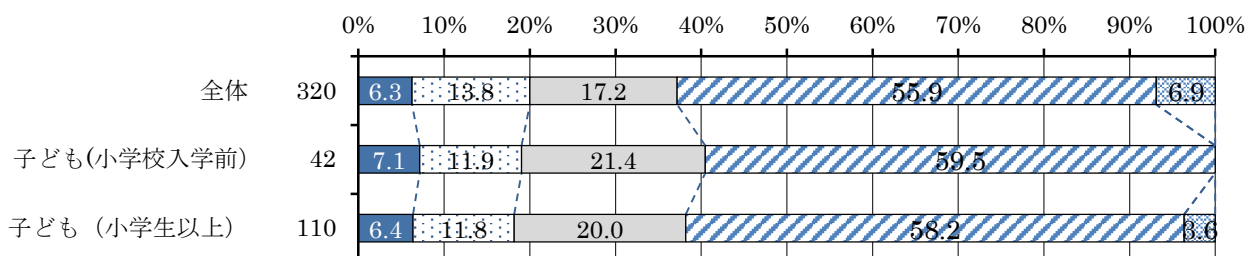


図 同居家族別 母子家庭・父子家庭の支援

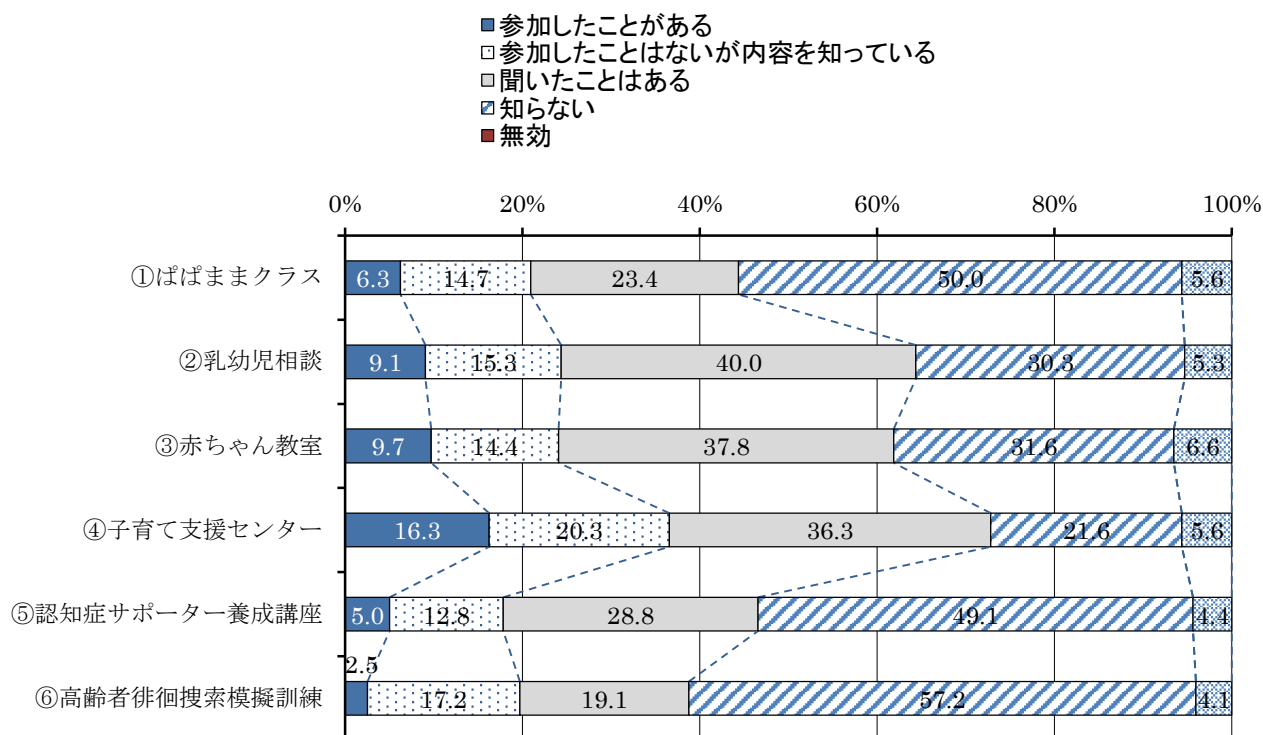


**問 11 以下の育児・介護に関して町が実施する教室や講座等を知っていますか。
(①から⑥でそれぞれ1つに○)**

「参加したことがある」が最も多いのが「子育て支援センター」16.3%で、「赤ちゃん教室」9.7%、「乳幼児相談」9.1%と続きました。

「知らない」が最も多かったのが、「高齢者徘徊搜索模擬訓練」57.2%で、次いで「ばばママクラス」50.0%、「認知症サポーター養成講座」49.1%となっています。

図 町が実施する育児・介護の教室や講座等の認知度



(1) 男女別

「参加したことがある」について、「高齢者徘徊搜索模擬訓練」では女性 2.1%、男性 3.4%と男性がやや上回りましたが、その他の全ての事業で、女性が大きく上回っています。男女の差異が大きなものとして、「子育て支援センター」(女性 21.9%、男性 8.4%)、「乳幼児相談」(女性 13.5%、男性 2.5%)、「赤ちゃん教室」(女性 13.5%、男性 4.2%)、「ばばママクラス」(女性 8.9%、男性 2.5%)がありました。

「知らない」の回答は、全ての項目において男性が女性を大きく上回っています。「知らない」割合が男性で過半数を上回ったものに、「高齢者徘徊搜索模擬訓練」(女性 50.5%、男性 69.7%)、「ばばママクラス」(女性 41.1%、男性 65.5%)、「認知症サポーター養成講座」(女性 43.8%、男性 59.7%)があります。

図 男女別 ぱぱママクラス

■参加したことがある □参加したことはないが内容を知っている □聞いたことはある □知らない ■無効 □無回答

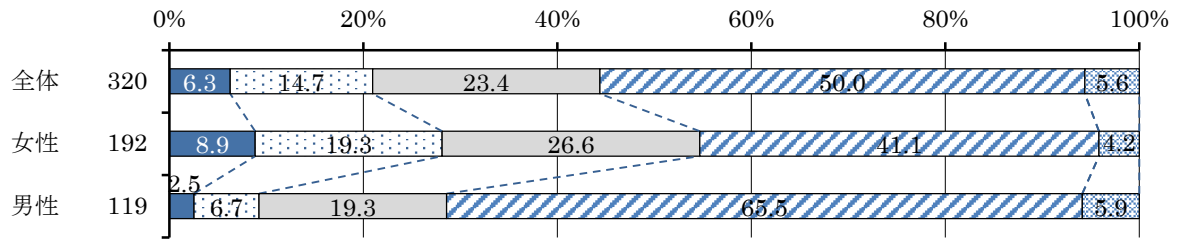


図 男女別 乳幼児相談

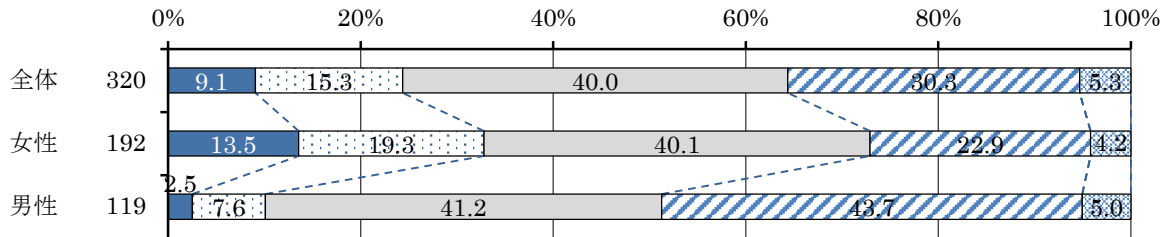


図 男女別 赤ちゃん教室

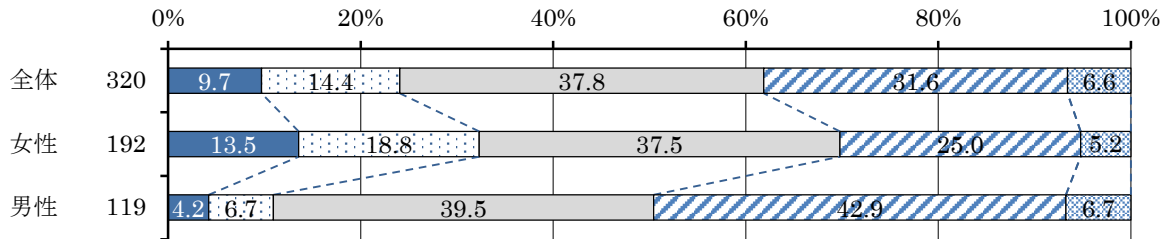


図 男女別 子育て支援センター

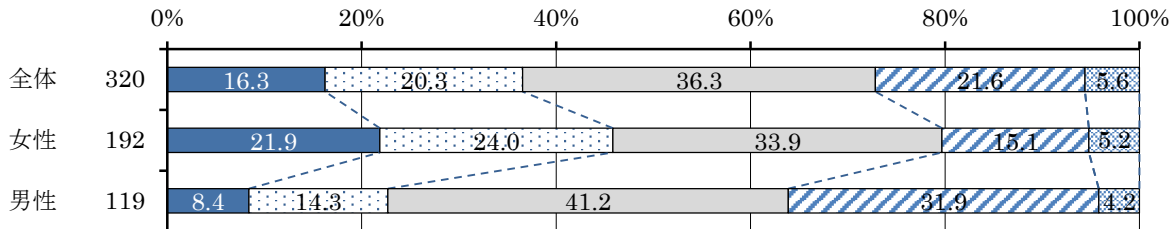


図 男女別 認知症サポーター養成講座

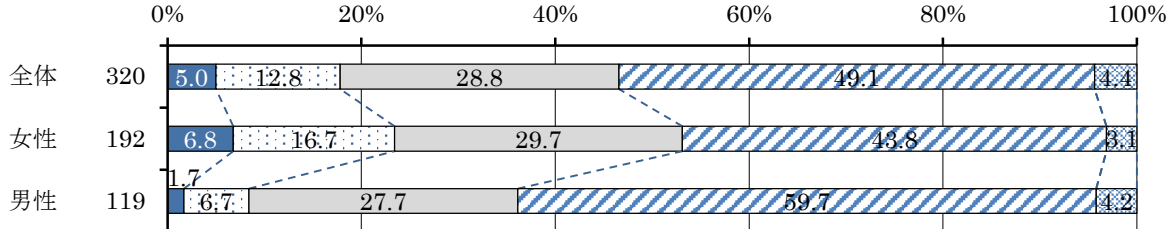
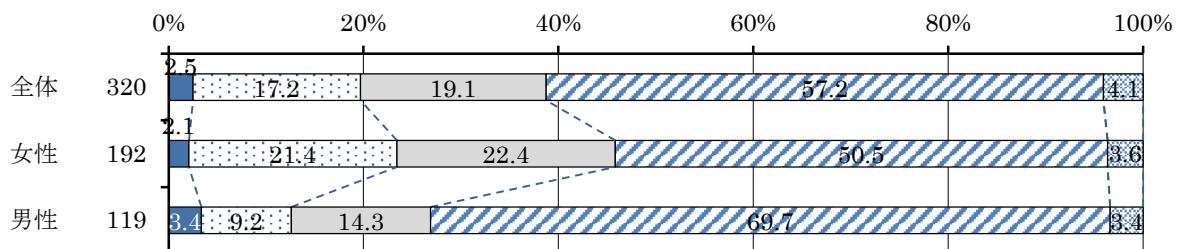


図 男女別 高齢者徘徊捜査模擬訓練



(2) 同居家族別

「子ども（小学校入学前）」と同居する家族では、子育てに関する下記事業について「知らない」はいずれも10%以下でした。また、「参加したことがある」が高かったものは、「子育て支援センター」（「子ども（小学校入学前）」59.5%、「子ども（小学生以上）」26.4%）、「赤ちゃん教室」各々40.5%、15.5%でした。

図 同居家族別 ぱまママクラス

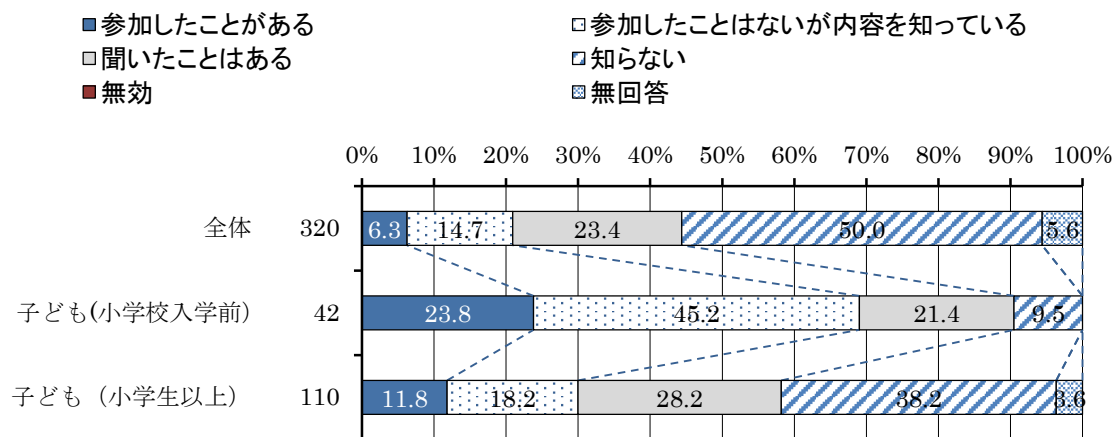


図 同居家族別 乳幼児相談

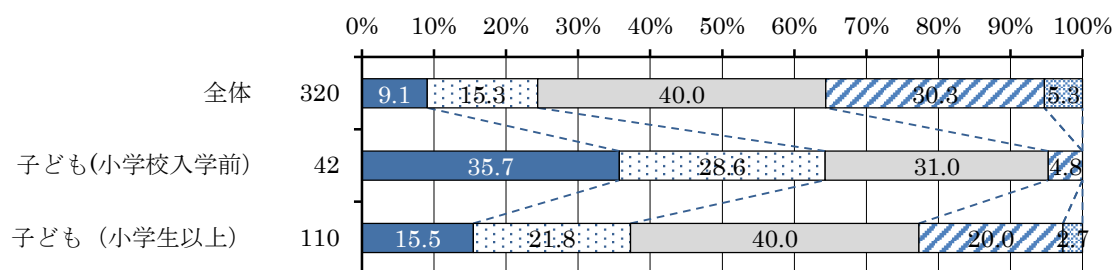


図 同居家族別 赤ちゃん教室

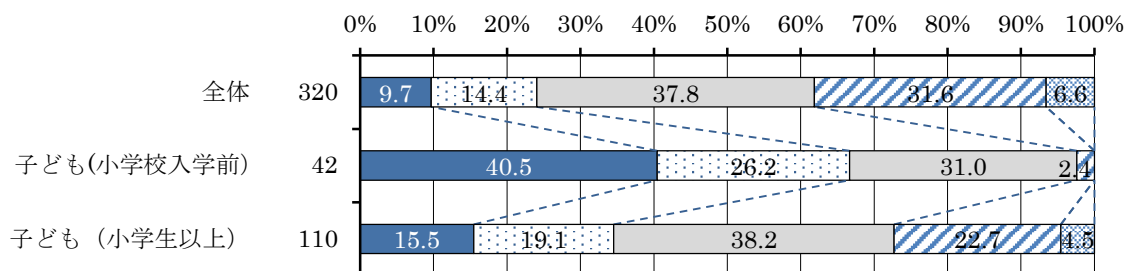


図 同居家族別 子育て支援センター

